

仏 教 学 部

履 修 要 項

昭 和 62 年 度

駒 澤 大 學

学 年 曆

前 期

- 4月 8日 (水) 入学式 (学部・短大)
- 9日 (木) } 新入生オリエンテーション
- 14日 (火) }
- 9日 (木) } 在校生成績発表 (学部・短大)
- 10日 (金) }
- 9日 (木) } 体育実技Ⅱ受講届 (種目選択届)
- 10日 (金) } 受付 (学部2年次生)
- 9日 (木) }
- 20日 (月) } 在校生身分証明登録 (学部・短大)
- 13日 (月) }
- 18日 (土) } 在校生成績質疑応答 (学部・短大)
- 15日 (水) } 前期授業開始
- 22日 (水) } 履修届受付 (学部・短大)
- 27日 (月) } (学部により受付日が異なる)
- 5月 7日 (木) } 春季健康診断
- 13日 (水) } (卒業年次生対象)
- 25日 (月) } 卒業論文論題受付
- 6月10日 (水) } (締切日は正午まで)
- 7月 6日 (月) } 外国語指定届受付 (仏教・文 (除英
- 11日 (土) } 米文)・法学部・短大国文・英文の
- 15日 (水) } 1年次生および経済学部の2年次生)
- 21日 (火) } 中間試験 (授業平常どおり)
- 21日 (火) } 前期授業最終日
- 22日 (水) } 前期終了科目定期試験
- 23日 (木) }
- 24日 (金) } 夏季休暇第1日 (9月14日まで)
- 24日 (金) } 体育実技Ⅱ集中授業コース・
- 28日 (火) } シーズンコース (テニス)
- 28日 (火) } (学部2年次生)
- 28日 (火) } 前期終了科目定期試験欠試届 (追試
- 28日 (火) } 験申込) 受付締切

後 期

- 9月 7日 (月) } 補講期間
- 12日 (土) }
- 16日 (水) } 後期授業開始
- 17日 (木) } 前期終了科目定期試験成績発表 (質
- 18日 (金) } 疑応答) および再試験申込受付

- 25日 (金) } 前期追・再試験 (授業平常どおり)
- 10月 1日 (木) }
- 1日 (木) } 専攻コース指定届受付
- 2日 (金) } (歴史・社会学科1年次生)
- 5日 (月) }
- 8日 (木) } 秋季健康診断 (1~3年次生対象)
- 15日 (木) } 第105回開校記念日 (全校休業)
- 11月11日 (水) }
- 13日 (金) } 転部・転科試験願書受付
- 27日 (金) } 転部・転科試験
- 12月 1日 (火) }
- 10日 (木) } 卒業論文受付 (締切日は正午まで)
- 3日 (木) }
- 11日 (金) } 編入学試験願書受付
- 19日 (土) } 冬季休暇第1日 (1月7日まで)
- 19日 (土) } 体育実技Ⅱ集中授業コース
- 23日 (水) } (学部2年次生)
- 21日 (月) } 編入学試験

昭和63年

- 1月 8日 (金) 後期授業再開
- 14日 (木) 後期授業最終日
- 16日 (土) }
- 27日 (水) } 定期試験 (専門・基礎・教職科目)
- 28日 (木) }
- 2月 5日 (金) } 定期試験 (一般・外国語・保健体育
- 6日 (土) } 科目)
- 6日 (土) } 定期試験欠試届受付締切 (学部4年
- 6日 (土) } 次生・短大生)
- 6日 (土) } 定期試験欠試届 (追試験申込) 受付
- 8日 (月) } 締切 (学部1~3年次生)
- 8日 (月) } 卒業論文口頭試問
- 15日 (月) }
- 19日 (金) } 体育実技Ⅱシーズンコース
- 18日 (木) } (スキーA・B) (学部2年次生)
- 19日 (金) } 成績発表 (質疑応答) および追・再試
- 25日 (木) } 験申込受付 (学部4年次生・短大生)
- 3月 2日 (水) } 追・再試験 (学部4年次生・短大生)
- 19日 (土) } 追試験 (学部1~3年次生)
- 25日 (金) } 卒業者名簿発表 (学部・短大)
- 25日 (金) } 卒業式 (学部・短大)

目 次

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 (1)
2. 授業科目の単位計算 (1)
3. 授業科目の区分 (1)

II 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数 (2)
2. 卒業論文 (3)
3. 学 士 号 (3)

III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 (4)
2. 外国語科目の履修方法 (5)
3. 保健体育科目の履修方法 (7)
4. 基礎教育科目の履修方法 (8)
5. 専門教育科目の履修方法 (8)
6. 随意科目の履修方法 (12)
7. 再履修科目の履修方法 (12)
8. 授業科目のコード番号について (13)

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 (14)
2. 履修届記入上の注意 (15)
3. 履修届（時間割）の作成順序 (16)

V 試験および成績評価

1. 定期試験 (17)
2. 中間試験 (17)
3. 追・再試験 (17)
4. 受験心得 (18)
5. 成績評価・単位認定 (18)
6. 試験時間 (18)

VI 進級について	(19)
VII クラス制およびクラス主任	(20)
VIII 教職課程・資格講座	(20)
IX 事務取扱いについて	
1. 成績発表・成績証明書	(21)
2. 授業時間	(21)
3. 事務室の事務受付時間	(21)
4. 休 講	(21)
5. 掲 示	(21)
6. 問い合わせ	(21)
X 学籍について	
1. 修業年限と在学年数	(22)
2. 休 学	(22)
3. 復 学	(22)
4. 退 学	(23)
5. 除 籍	(23)
6. 懲 戒	(23)
7. 再 入 学	(23)
8. 編 入 学 (学士入学)	(23)
9. 転部・転科	(24)
10. 学生氏名・保証人	(24)
11. 学生番号	(24)
XI 既修得単位の認定について	(25)
XII 届書・願書について	(26)
XIII 各種証明書取扱い窓口	(27)
試験実施規程 (抜粋)	(28)
進 級 規 程	(30)
講 義 内 容	(31)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準に従って授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学期間は4カ年以上(7カ年を超えてはならない)である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

(a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目

(b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

(c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

A. 60年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	24	} 132以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		4	16	16	
専 門 教 育 科 目	必 修	14	38	76	
	選 択		30		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一 般 教 育 科 目	人 文 分 野	3	12	24	} 132以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	1	4		
外 国 語 科 目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保 健 体 育 科 目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		4	16	16	
専 門 教 育 科 目	必 修	14	38	76	
	選 択		30		
	卒 業 論 文 (必 修)		8		

2. 卒業論文

卒業論文は、あらかじめ自己の研究目標をたて、2年次以降その研究目標に関連する適当な選択科目を履修し、4年次で提出しなければならない。

指導教授および論題は、原則として演習Ⅰ、演習Ⅱに基づいて決定することが望ましい。

提出された卒業論文（1部）は審査の上、合格者には8単位を認定する。

イ. 論題提出について

(1) 論題は所定の用紙「卒業論文論題届」に楷書で正確に記入の上、指導教授の承認印を受けて提出すること。

(2) 提出された論題の変更は原則として認めない。

論題提出期間 5月25日（月）～ 6月10日（水）正午まで（教務部⑥番窓口）

ロ. 論文作成について

(1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。

(2) 論文は提出した論題により作成すること。

(3) 論文は所定用紙（大学売店にて販売）を使用すること。

(4) 論文は楷書でていねいに書くこと。

(5) 論文の枚数・表紙・体裁等については別に指示する。

(6) 論文作成にあたっては「卒業論文作成の手引」を参照のこと。

ハ. 論文提出について

(1) 論文は論題受付印のある「卒業論文審査願」とともに提出すること。

(2) 論文は誤字・脱字・内容等について再点検し、提出すること。

論文提出期間 12月1日（火）～ 10日（木）正午まで（教務部⑥番窓口）

[提出期間に遅れたとき、または授業料その他の学費を納入していない場合は受理しない。]

ニ. 論文審査について

論文は指導教授によって審査・口頭試問を行い可否を判定する。

口頭試問日 2月8日（月）

3. 学 士 号

大学に4カ年以上（7カ年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の学士の称号が与えられる。

仏教学部 禅学科 }文学士
 仏教学科 }

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。(再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。)
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

人文分野	4単位ずつ3科目	計12単位	}	合計6科目	24単位
社会分野	4単位ずつ2科目	計8単位			
自然分野	4単位	1科目 4単位			

分 野	授 業 科 目	単 位	履 修 科 目 数	修得 単位	計	備 考
人文分野	宗教学Ⅰ(1年次必修)	4	「宗教学Ⅰ」を 含めて3科目選 択必修	12	}	
	哲 学	4				
	論 理 学	4				
	文 学	4				
社会分野	法 学 憲 法 (日本国憲法2単位を含む)	4	2科目選択必修	8	}	教員免許状を取 得しようとする ものは「法学憲 法」を必修とする。
	経 済 学	4				
	社 会 学	4				
自然分野	自 然 科 学 概 論	4	1科目選択必修	4	}	
	心 理 学	4				
	人 類 学	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は月曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照)で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

履 修 年 次	第 1 外 国 語		第 2 外 国 語		計	
	科 目 数	単 位 数	科 目 数	単 位 数	科 目 数	単 位 数
1 年 次	2	4	2	4	4	8
2 年 次	2	4	—	—	2	4
計	4	8	2	4	6	12

1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数	備 考
英 語 1 G	2		1 G・1 R 2科目を必修とする。ただし1 Gは「英会話 I」または「英語 L L I」に代替できる。	L L I (ランゲージ・ラボラトリー)
英 語 1 R	2			
英 会 話 I	2			
英 語 L L I	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
ド イ ツ 語 1 G	2	文 法	5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修とする。	
ド イ ツ 語 1 R	2	講 読		
フ ラ ン ス 語 1 G	2	文 法		
フ ラ ン ス 語 1 R	2	講 読		
中 国 語 1 G	2	文 法		
中 国 語 1 R	2	講 読		
ス ペ イ ン 語 1 G	2	文 法		
ス ペ イ ン 語 1 R	2	講 読		
ロ シ ア 語 1 G	2	文 法		
ロ シ ア 語 1 R	2	講 読		

※ 英語科目内容

英語1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語1R：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※ 「英語1R」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語として2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修とすること。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 2AⅠ	2		中 国 語 2AⅠ	2	講 読
英 語 2AⅡ	2		中 国 語 2AⅡ	2	講 読
ド イ ツ 語 2AⅠ	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2AⅠ	2	講 読
ド イ ツ 語 2AⅡ	2	講 読	ス ペ イ ン 語 2AⅡ	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2AⅠ	2	講 読	ロ シ ア 語 2AⅠ	2	講 読
フ ラ ン ス 語 2AⅡ	2	講 読	ロ シ ア 語 2AⅡ	2	講 読

※ 英語科目内容

英語2AⅠ：講読を通し、はば広い教養を修得する。

英語2AⅡ：意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次履修の外国語（英語と他の1カ国語）の中から第1外国語、第2外国語の別を学生自身が指定し、7月初旬に登録する。従って1年次生は前期の授業で十分考慮の上登録すること。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める。
- ホ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度以降入学生より新カリキュラムを適用する。なお、昭和59年度以前入学生は、旧カリキュラムが適用される。

A. 60年度以降入学生適用

講義と実技に分かれる。講義は1年次に1科目2単位、実技は1年次1科目1単位「体育実技Ⅰ」、2年次1科目1単位「体育実技Ⅱ」の3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は月曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰについての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される「体育実技受講要領」を参照すること。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、「体育実技受講要領」を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

B. 59年度以前入学生適用

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前期または後期
実 技	体育実技	2	通 年

イ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

ロ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

ハ. 講義・実技とも1年次生は玉川校舎で授業を行う。

※ 実技についての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される「体育実技受講要領」を参照すること。

4. 基礎教育科目の履修方法

専門教育科目の基礎となる授業科目で1年次・2年次において4科目16単位を必修とする。

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	基礎仏教学	4	
	仏書解説Ⅰ	4	
2年次	仏教語解説	4	
	仏書解説Ⅱ	4	

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は禅学科と仏教学科で異なる。

専門教育科目は必修科目と選択科目に分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した科目については再度履修することはできない。

禅学科

必修科目(46単位)

	授業科目	単位	科目内容	備考
二年次	禅学概論	4		
	禅宗史Ⅰ	2	中国禅宗史	
	宗典講読Ⅰ	2	修証義・用心集・随聞記	
	禅学実習Ⅰ	2	坐禅(坐禅儀)	
三年次	宗典講義Ⅰ	4	正法眼蔵	
	禅宗史Ⅱ	2	日本禅宗史	
	宗典講読Ⅱ	2	大清規・信心銘拈提	
	禅学講義	2	参同契・宝鏡三昧・証道歌	
	禅学演習Ⅰ	2	碧巖録・従容録・無門関	
	禅学実習Ⅱ	2	坐禅(用心記)	
	演習Ⅰ	4		
四年次	宗典講義Ⅱ	4	伝光録	
	禅学演習Ⅱ	2	洞山録・永平語録・臨濟録	
	演習Ⅱ	4		
	卒業論文	8		

※ 「演習Ⅰ」・「演習Ⅱ」の履修方法については、2年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

禅学 科

選 択 科 目 (30単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
禅 学 研 究	4		哲 学 史	4	
禅 籍 講 義	4		哲 学 史 特 講	4	
禅 学 特 講	4	I・II・III・IV	哲 学 演 習	4	
禅 特 講	4		東 洋 思 想 研 究	4	
禅 学 思 想 史	4		中 国 哲 学 史	4	
詩 偈	4		宗 教 学 概 論	4	
日 用 經 典	4		新 宗 教 概 説	4	62年度は「神道概説 (輪番開講)」
書 道	4		新 神 道 概 説		
禅 美 術	4		宗 教 史	4	
仏 教 概 論	4		キ リ ス ト 教 史	4	
仏 教 研 究	4	休 講	キ リ ス ト 教 概 論	4	
仏 教 教 理 史 I	2	印 度	パ ー リ 語 初 級	4	
仏 教 教 理 史 II	2	中 国	パ ー リ 語 上 級	4	
印 度 仏 教 史	4		パ ー リ 語 演 習	4	
中 国 仏 教 史	4		パ ー リ 仏 教 特 講	4	
日 本 仏 教 史	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 初 級	4	
印 度 仏 教 文 化 史	4		サ ン ス ク リ ッ ト 語 上 級	4	
仏 教 特 講	4	I・II・III・IV・V	サ ン ス ク リ ッ ト 語 演 習	4	
仏 典 研 究	4	休 講	チ ベ ッ ト 語 (文 法)	4	
原 始 仏 教	4		チ ベ ッ ト 語 (講 読)	4	
外 国 語 仏 書 演 習	4		中 国 文 学 概 論	4	
各 宗 綱 要 〔浄土学〕 〔真言学〕 〔日蓮教学〕	4	62年度は「真言学」 (輪番開講)	中 国 文 学 演 習	4	
			ラ テ ン 語 特 講	4	
仏 教 民 俗 学	4		宗 教 教 育	4	
仏 教 美 術	4		宗 教 行 政	4	隔 年 開 講
青 少 年 問 題 研 究	4		教 化 法	4	
青 少 年 指 導 演 習	4		青 少 年 教 化 法	4	
哲 学 概 説	4		心 理 学 概 論	4	
現 代 哲 学 概 説	4				

仏 教 学 科

必 修 科 目 (46単位)

	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	備 考
二 年 次	仏 教 概 論	4		
	仏 教 教 理 史 I	2	印度仏教教理史	
	仏 典 演 習 I	2	原人論・覚夢抄・七十五法	
	禪 学 実 習 I	2	坐禅(坐禅儀)	
三 年 次	仏 教 教 理 史 II	2	中国仏教教理史	
	印 度 哲 学 史	2		
	経 典 講 読 I	2	法句経・四十二章経・遺教経・ 心経・金剛般若経	
	仏 典 演 習 II	2	起信論・三論玄義・四教儀・ 五教章	
	宗 典 講 義 I	4	正法眼蔵	
	禪 学 実 習 II	2	坐禅(用心記)	
	演 習 I	4		
四 年 次	経 典 講 読 II	2	法華 ^{寿量品} ・維摩經 普門品・般若経	
	宗 典 講 義 II	4	伝光録	
	演 習 II	4		
	卒 業 論 文	8		

※ 「演習Ⅰ」・「演習Ⅱ」の履修方法については、2年次の秋頃に特別のオリエンテーションを行うので掲示に注意すること。

仏 教 学 科

選 択 科 目 (30単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
仏 教 研 究	4	休 講	哲 学 史	4	
印 度 仏 教 史	4		哲 学 史 特 講	4	
中 国 仏 教 史	4		哲 学 演 習	4	
日 本 仏 教 史	4		東 洋 思 想 研 究	4	
印 度 仏 教 文 化 史	4		中 国 哲 学 史	4	
仏 教 特 講	4	I・II・III・IV・V	宗 教 学 概 論	4	
仏 典 研 究	4	休 講	新 宗 教 概 説	4	62年度は「神道概説 (輪番開講)」
原 始 仏 教	4		新 神 道 概 説		
外 国 語 仏 書 演 習	4		宗 教 史	4	
各 宗 要 〔浄土学〕 〔真言学〕 〔日蓮教学〕	4	62年度は「真言学」 (輪番開講)	キ リ ス ト 教 史	4	
			キ リ ス ト 教 概 論	4	
仏 教 民 俗 学	4		パ ー リ 語 初 級	4	
仏 教 美 術	4		パ ー リ 語 上 級	4	
禅 学 概 論	4		パ ー リ 語 演 習	4	
禅 学 研 究	4		パ ー リ 仏 教 特 講	4	
禅 宗 史 I	2	中 国	サ ン ス ク リ ッ ト 語 初 級	4	
禅 宗 史 II	2	日 本	サ ン ス ク リ ッ ト 語 上 級	4	
禅 学 特 講	4	I・II・III・IV	サ ン ス ク リ ッ ト 語 演 習	4	
禅 特 講	4		チ ベ ッ ト 語 (文 法)	4	
禅 籍 講 義	4		チ ベ ッ ト 語 (講 読)	4	
禅 学 思 想 史	4		中 国 文 学 概 論	4	
詩 偈	4		中 国 文 学 演 習	4	
日 用 経 典	4		ラ テ ン 語 特 講	4	
書 道	4		宗 教 教 育	4	
禅 美 術	4		宗 教 行 政	4	隔 年 開 講
青 少 年 問 題 研 究	4		教 化 法	4	
青 少 年 指 導 演 習	4		青 少 年 教 化 法	4	
哲 学 概 説	4		心 理 学 概 論	4	
現 代 哲 学 概 説	4				

6. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日本宗教文化史	4		英 語 LLII	2	
英 会 話 II	2		ド イ ツ 語 FLL	2	初 級・中 級
ド イ ツ 語 F	2		フ ラ ン ス 語 FLL	2	初 級・中 級
フ ラ ン ス 語 F	2		中 国 語 FLL	2	初 級・中 級
中 国 語 F	2		ス ペ イ ン 語 FLL	2	初 級・中 級
ス ペ イ ン 語 F	2		ロ シ ア 語 FLL	2	初 級・中 級
ロ シ ア 語 F	2		英 語 (海 外 演 習)	2	※

※ 「英語 (海外演習)」は、ハワイ大学およびカリフォルニア大学で行われる短期留学サマーセミナーで、1年次生より履修できる。なお、詳細については、講義内容 (P. 40) を参照のこと。

○ 外国人留学生対象の随意科目「日本語F」について (1年次生より履修できる。)

イ. 1年次生は、学年始めに実施する「日本語テスト」の結果により「日本語F」科目を指定するので、その指定された科目を履修すること。

ロ. 2年次生以上の学生もできるだけ履修することが望ましい。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 語 F (I)	2	基 礎 1	日 本 語 F (IV)	2	応 用 2
日 本 語 F (II)	2	基 礎 2	日 本 語 F (V)	2	演 習
日 本 語 F (III)	2	応 用 1			

7. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目 (受験しなかった科目を含む) を翌年度に再度履修することをいう。この場合、授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は、新履修とみなして制限科目数内で履修しなければならない。(休学の場合も同様)

ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。

ニ. 外国語・体育実技 I (59年度以前入学生は体育実技)・保健体育理論および宗教学 I を再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」(本校で授業を行う)で履修すること。ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

ホ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

8. 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

--	--	--	--	--	--

学部 学科 系列 分野 一連番号

ロ. 学部, 学科番号は「学生番号 (P. 24参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分野番号
一般教育科目	0	
人文分野		1 (必修)・2 (選択)
社会分野		3
自然分野		4
基礎教育科目	1	1
外国語科目	2	
保健体育科目	4	
実 技		1
講 義		2
専門教育科目	5	
必修科目		1・2・3
選択科目		5・6・7・8
随意科目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必修科目		1
選択科目		2
教科科目		3・4・5・6・7・8

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の「単位履修届」用紙に必要な事項を記入し届け出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

年次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1年次	14科目	—
2年次	14科目以内	17科目以内
3年次	14科目以内	17科目以内
4年次	1科目以上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ・随意科目は，上記表の制限外とする。

ロ. 外国人留学生を対象とする随意科目「日本語F（Ⅰ～Ⅴ）」は，1年次生より履修することができ，上記表の制限外とする。

ハ. 4年次生は最低1科目以上とし，最高制限を設けないが，卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。

ニ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し，学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は，学業の意志のないものとして処理する。なお，指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること。）

ロ. 履修届の日時，場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし，課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

月 曜 日				
	授 業 科 目	科 目 コ ー ド	担 任	担任 コ ー ド
一 時 限	ドイツ語 1 G	112201	百 済	879
	保健体育理論(前期)	114201	長 濱	A10
保健体育理論(後期)	622			
二 時 限	宗 教 学 I	110101	平井(俊)	735
	論 理 学	110203	國 嶋	306
三 時 限	自 然 科 学 概 論	110401	宇和川	104
四 時 限				
五 時 限				

正しい記入例

曜日	時 限	再 履	科 目 名	科目コード	担 任	担任 コ ー ド
月 (1)	1		ドイツ語 1G	112201	百 済	879
	2		保健体育理論(前期)	114201	長 濱	A10
	3		宗 教 学 I	110101	平井(俊)	735
	4	○	論 理 学	110203	國 嶋	306
	5		自然科学概論	110401	宇和川	104

- イ. 楷書体で正確に記入すること。
- ロ. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
- ハ. 授業時間表のとおり記入すること。
- ニ. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、前期終了科目は上段・後期終了科目は下段に記入すること。
- ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
- ヘ. 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
 - (1) 科目名・科目コード、担任名・担任コードが一致しない場合
 - (2) 時限を誤って記入した場合
 - (3) 間違い易い数字で記入した場合(例 0と6, 1と7)
 - (4) その他、不明瞭に記入した場合
- ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担任コードを正しく記入すること。
- チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
- リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失ないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎仏教学，仏書解説Ⅰ（必修）	2
5	一般教育科目	人文分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
		自然分野：開講科目の中から1科目を選択必修	1
1年次履修制限科目数			14

V 試験および成績評価

1. 定期試験

イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月から2月にかけて実施される。

ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。

ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担任名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。

なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。

ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。

(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目によって担任者が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I) 追試験

イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)

ロ. 追試験料は徴収しない。

II) 再試験

1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。

ロ. 受験料は1科目500円とする。

III) 体育・外国語科目・その他

イ. 体育実技、禅学実習、その他実験実習を伴う科目は、追・再試験ともこれを行わない。

ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担任教員に申し出て指導を受けること。

4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペン又はボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり、又は代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机、壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作、メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部窓口にて手続きをすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。
なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

6. 試験時間

定期試験実施時間（前期・後期とも）		追（再）試験実施時間（前期）	追（再）試験実施時間（後期）
1時限 9：30～10：30	4時限 14：30～15：30	1時限 16：10～17：00	1時限 9：30～10：20
2時限 11：00～12：00	5時限 15：50～16：50	2時限 17：10～18：00	2時限 10：50～11：40
3時限 13：00～14：00	6時限 17：10～18：10		3時限 13：00～13：50
			4時限 14：10～15：00
			5時限 15：20～16：10

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.28）ので参照のこと。

VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表（単位は卒業所要単位のうちとする。）

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。または90単位以上修得しているが、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が、13単位以上不足している場合。

進級規程が掲載されている（P.30）ので参照のこと。

Ⅶ クラス制およびクラス主任

- イ. 1・2年次は学科毎にクラス制をとっている。
- ロ. クラスにはクラス主任（教員）が1名ずつおり、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

Ⅷ 教職課程・資格講座

仏教学部で開講されている資格取得の課程・講座は、教職課程、学校図書館司書教諭講座、博物館学講座、社会福祉主事講座および社会教育主事講座である。

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したものは、中学校1級・高等学校2級の各普通免許状が取得できる。

学校図書館司書教諭、博物館学、社会福祉主事および社会教育主事の各講座は、学校教育を充実することを目的とする学校図書館、社会教育の場として十分に利用され、その目的、使命を達成する博物館、社会福祉を増進させるための機関等および青少年に対して行われる組織的な教育活動である教育施設の各専門職員となる有資格者を養成するために設けられている。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。（授業科目の講義内容は当該履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1カ月前より掲示板で、その旨指示する。

開講されている課程・講座

課 程 ・ 講 座 名		備 考
教 職 課 程	2年次より	
学校図書館司書教諭講座	〃	
博 物 館 学 講 座	〃	
社 会 福 祉 主 事 講 座	〃	
社 会 教 育 主 事 講 座	〃	62年度より適用

IX 事務取扱いについて

1. 成績発表・成績証明書

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担任教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は、卒業年度生以外は原則として発行しない。

2. 授業時間

授業時間は、次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～10:30	10:40～12:10	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40

3. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

4. 休 講

- イ. 休講は担任教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口にて申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、国電（山手、中央、京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

5. 掲 示

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

X 学籍について

1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことで、本学の修業年限は4年である。
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有していられる期間のことで、本学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

2. 休学

傷病その他の理由で引き続き2カ月以上修学することができない者は、その理由を付して、保証人連署の休学願を提出し、許可を得て休学することができる。

I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
 - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
 - (2) 外国で修学する場合は修学先・修学目的・在留期間を証明する書類
 - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2カ月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1カ年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4カ年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

III) 休学する場合の学費

休学を願う者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学 費
4月1日～9月30日	前期分納入済のこと。(後期分免除)
10月1日～11月30日	前期分・後期分共納入のこと。

IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

3. 復学

- イ. 休学者が復学する場合は、前期学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月7日までに提出し、許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

4. 退 学

傷病その他やむを得ない理由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し、許可を得ること。

- イ. 退学願は、退学理由を明記し保証人連署で願い出ること。
- ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。
- ハ. 退学年月日については、次のとおりとする。
 - (1) 当該期学費納入者……退学願提出日
 - (2) 当該期学費未納者……学費納入済学期の最終日

5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

- イ. 在学年数を越えた者
- ロ. 休学期間を越えた者
- ハ. 学費の納入を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

6. 懲 戒

- イ. 本学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。
- ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。
 - (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
 - (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

7. 再入学

本大学を中途退学した者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可する。

- イ. 退学後3年以内の者に限る。(出願時を基準とする。)
- ロ. 在学年数が、従前在学の期間と、再入学後卒業までの期間の通算が7年以内で修業できる見込みの者。
- ハ. 1年次在学中に退学した者、除籍者および退学処分者は対象としない。
- ニ. 再入学志望学科は、従前在学の学部・学科であること。
- ホ. 再入学の年次は、退学時の年次(進級可能な場合は進級年次)とし、従前在学中に取得した単位は原則として認定する。

8. 編入学(学士入学)

本大学卒業生(卒業見込者)で卒業学部他学科または他学部学科の3年次または2年次に編入学を希望する者のあるときは、欠員のある場合に限り、選考の上入学を許可する。

- イ. 3年次編入を出願していても、志望学科の単位認定の結果、2年次に入学を許可することがある。
- ロ. 3年次または2年次に編入学を許可された者は、既に、それぞれ2年または1年の在学年数を経たものとする。

9. 転部・転科

本学の学生で、同一学部の他学科または他の学部学科に転科若しくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。(学科により異なる。)

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

10. 学生氏名・保証人

- イ. 届け出の学生氏名は戸籍抄本または外国人登録済証明書に記載されたとおりとする。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本学在学中一貫して通称名を使用することとし、本学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は日本国内に在住する親権者若しくはそれに準ずる者で、独立の生計を営む成年者とし、在学中の一切の事項について保証する者とする。
- ホ. 学生・保証人の氏名・住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

11. 学生番号

- イ. 昭和62年度より、従来使用していた学生番号(8桁)を改め新規の学生番号を設定する。
- ロ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ハ. 学生番号は6桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分

⋮	⋮	⋮	}		
学	学	入	一		
部	科	学	連		
		(西)	番		
		年	号		
		度	号		

学部・学科の番号

学部・学科名	学部番号	学科番号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

(例) 1987年度入学・仏教学部禅学科 12番の場合

1	1	7	0	1	2
⋮	⋮	⋮	}		
仏	禅	一	12		
学	学	九	番		
部	科	八	号		
		七	号		
		年	号		
		入	号		
		学	号		

XI 既修得単位の認定について

イ. 新たに第1年次に入学した者の既修得単位の認定

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者については、学則第30条の2により、従前在学した大学等において既に修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本学において修得した単位として認定することができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、入学した年度の4月3日までに既修得単位認定申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願出しなければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

ロ. 編入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、出願時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会で認定した授業科目の単位は、卒業所要単位の算入される。

ハ. 再入学者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位については、再入学時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会でこれを認定する。

ニ. 転部・転科者の単位認定

従前在学中に修得した授業科目の単位のうち、出願時に提出された成績（単位修得）証明書をもとに当該教授会で認定した授業科目の単位は、卒業所要単位の算入される。

この単位認定については、昭和62年度新入生、編入学者、再入学者および転部・転科者から適用する。

XII 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類	要 領 (必要書類)	本人印	保証人印	取扱窓口	
届 書	単 位 履 修 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 各年度に単位修得しようとする授業科目を指定期日に必ず届け出ること。 	要	不要	掲示
	欠 試 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること。(締切日は掲示参照) 	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 掲示板にて指示。 	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 戸籍抄本添付。 ・ 変更後1週間以内。 	要	不要	⑤
	本 籍 地 変 更 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 戸籍抄本添付。 ・ 変更後1週間以内。 	要	不要	
	保 証 人 変 更 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 在学誓書(保証書)添付。 ・ 変更後1週間以内。 	要	要	
	保 証 人 住 所 変 更 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 変更後1週間以内。 	要	不要	
死 亡 届	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 死亡診断書添付。 	/	要		
願 書	休 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 傷病による場合は、医師の診断書添付。 ・ 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在学期間を証明する書類。 ・ その他の場合は、保証人連署の理由書。 	要	要	⑤
	復 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 傷病による休学をした場合は、医師の通学可能である証明書添付。 ・ 4月7日までに提出すること。 	要	要	
	退 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所定用紙あり。 ・ 学生証添付。 	要	要	

XIII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	1通 100円 (英文証明書) 1通 300円)
成績証明書		
卒業証明書		
学士証明書		
教員免許状取得見込証明書		
単位修得証明書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一般教養科目修了（見込）証明書		
その他の諸証明書		
人物考査書	就 職 部	
健康診断証明書	学 生 部 ③ 番	
在学証明書	学 生 部 ② 番	
学割		無 料
通学証明書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口に応じ込むこと。発行は原則として3日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

（目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。） 病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間査閲として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
 - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
 - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

進 級 規 程

(昭和51年4月1日制定)

昭和62年2月23日改正

(目 的)

第1条 この規程は、駒沢大学学則第14条に基づき、学生が上級学年に進級するために必要な修得単位数の基準を定めることを目的とする。

(進級基準単位数)

第2条 学生が上級学年に進級するときは、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得していなければならない。

- (1) 1年から2年に進級するときは、30単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年に進級するときは、60単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年に進級するときは、仏教学部、文学部、経済学部、経営学部、経済学部第2部、法学部第2部、経営学部第2部においては90単位以上、法学部においては99単位以上を修得していること。ただし、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の所要単位をすべて修得していなければならない。

(注意進級基準単位数)

第3条 前条の規定にかかわらず、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得しているときは、本人に注意を喚起し、上級学年への進級を認めることができる。

- (1) 1年から2年への進級を認めるときは、20単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年への進級を認めるときは、経営学部及び経営学部第2部においては48単位以上、他の学部においては50単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年への進級を認めるときは、次に掲げる条件の一に該当していること。
 - ア. 仏教学部、文学部、法学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。
 - イ. 経済学部及び経済学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が16単位以下であること。
 - ウ. 法学部においては、99単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。
 - エ. 経営学部においては86単位以上、経営学部第2部においては84単位以上を修得し、かつ、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

(原 級)

第4条 修得単位数の合計が、注意進級基準単位数に達しない者は、原級に留め置くものとする。

附 則

省 略

講義内容目次

一般教育科目	(35)
保健体育科目	(37)
随意科目	(38)
基礎教育科目	(41)
専門教育科目	(43)
教職および資格講座	(55)

一般教育科目

人文分野

宗教学Ⅰ(松本 皓一)	35
宗教学Ⅰ(再クラス)(岡部 和雄)	35
宗教学Ⅰ(再クラス)(奈良 康明)	35
哲学(戸田 洋樹)	35
論理学(湯浅 正彦)	35
文学(篠原 壽雄)	35

社会分野

法学憲法(松村 格)	36
経済学(浅田 統一郎)	36
社会学(角家 文雄)	36

自然分野

自然科学概論(斎藤 浩三)	36
人類学(中島 寿雄)	36
心理学(谷口 泰富)	36

保健体育科目

保健体育理論(森本 葵)	37
保健体育理論(再クラス)(三幣 晴三)	37
保健体育理論(再クラス)(森本 葵)	37

随意科目

日本宗教文化史(脇本 平也)	38
英会話Ⅱ(J.ウェルズ・J.G.ギャリソン・ T.J.コーガン・P.A.ベンディネリィ)	38
英語LLⅡ(T.J.コーガン・見上 晃)	38
ドイツ語F(吾妻 雄次郎)	38
ドイツ語FLL(初級)(小林 佳世子)	38
ドイツ語FLL(中級)(野島 利彰)	38
フランス語F(佐伯 隆幸)	38
フランス語FLL(初級)(松岡 宏一)	38
フランス語FLL(初級) (マドレーヌ・マルタン)	39
フランス語FLL(中級) (マドレーヌ・マルタン)	39
中国語F(釜屋 修)	39
中国語FLL(初級)(果 荃英)	39
中国語FLL(中級)(羅 濠明)	39
スペイン語F(佐藤 玖美子)	39
スペイン語FLL(初級)(ホワン・ナバロ)	39
スペイン語FLL(中級)(ホワン・ナバロ)	39
ロシア語F(杉山 秀子)	39
ロシア語FLL(初級)(タチアナ・野村)	40

ロシア語FLL(中級)(タチアナ・野村)	40
英語(海外演習)	40

基礎教育科目

基礎仏教学(新井 勝龍)	41
基礎仏教学(池田 魯参)	41
基礎仏教学(石井 修道)	41
仏書解説Ⅰ(伊藤 秀憲)	41
仏書解説Ⅰ(永井 政之)	41
仏書解説Ⅰ(原田 弘道)	41
仏書解説Ⅱ(伊藤 隆寿)	41
仏書解説Ⅱ(大谷 哲夫)	42
仏書解説Ⅱ(片山 一良)	42
仏教語解説(皆川 広義)	42
仏教語解説(峰岸 孝哉)	42
仏教語解説(吉津 宜英)	42

専門教育科目

禅学概論(黒丸 寛之)	43
禅学思想史(峰岸 孝哉)	43
禅宗史Ⅰ(田中 良昭)	43
禅宗史Ⅱ(原田 弘道)	43
禅学実習Ⅰ(河村 孝道・小坂 機融・ 永井 政之)	43
禅学実習Ⅱ(伊藤 秀憲・鈴木 格禅)	43
禅学講義(小坂 機融)	44
禅学演習Ⅰ(青龍 宗二)	44
禅学演習Ⅱ(峰岸 孝哉)	44
宗典講読Ⅰ(新井 勝龍)	44
宗典講読Ⅱ(若月 正吾)	44
宗典講義Ⅰ(河村 孝道)	44
宗典講義Ⅰ(黒丸 寛之)	44
宗典講義Ⅱ(光地 英学)	45
日用経典(櫻井 秀雄)	45
禅学特講Ⅰ(原田 弘道)	45
禅学特講Ⅱ(黒丸 寛之)	45
禅学特講Ⅲ(石井 修道)	45
禅学特講Ⅳ(鈴木 格禅)	45
禅特講(椎名 宏雄)	45
禅学研究(大谷 哲夫)	45
禅籍講義(青龍 宗二)	46
詩偈(山口 晴通)	46
書道(野村 宙弘)	46
禅美術(海老根 聰郎)	46
仏教概論(山内 舜雄)	46
印度仏教史(田上 太秀)	46
中国仏教史(佐藤 達玄)	46

印度仏教文化史(奈良 康明)	46	心理学概論(篠原 英壽)	53
日本仏教史(山内 舜雄)	47	演習Ⅰ・Ⅱ(大谷 哲夫)	53
仏教教理史Ⅰ(印度)(袴谷 憲昭)	47		
仏教教理史Ⅱ(中国)(岡部 和雄)	47		
印度哲学史(金沢 篤)	47		
経典講読Ⅰ(吉津 宜英)	47		
経典講読Ⅱ(岡部 和雄)	47		
仏典演習Ⅰ(佐藤 達玄)	47		
仏典演習Ⅰ(吉津 宜英)	47		
仏典演習Ⅱ(伊藤 隆寿)	48		
仏典演習Ⅱ(池田 魯参)	48		
原始仏教(片山 一良)	48		
仏教特講Ⅰ(平川 彰)	48		
仏教特講Ⅱ(納富 常天)	48		
仏教特講Ⅲ(鎌田 茂雄)	48		
仏教特講Ⅳ(太田 久紀)	48		
仏教特講Ⅴ(菅原 昭英)	48		
外国語仏書演習(木村 誠司)	49		
パーリ語(初級)(片山 一良)	49		
パーリ語(上級)(福田 孝雄)	49		
パーリ語演習(福田 孝雄)	49		
パーリ仏教特講(片山 一良)	49		
サンスクリット語(初級)(奈良 康明)	49		
サンスクリット語(上級)(金沢 篤)	49		
サンスクリット語演習(金沢 篤)	50		
チベット語(文法)(木村 誠司)	50		
チベット語(講読)(袴谷 憲昭)	50		
ラテン語特講(佐藤 玖美子)	50		
宗教学概論(松本 皓一)	50		
宗教史(松本 皓一)	50		
キリスト教史(三小田 敏雄)	50		
キリスト教概論(金井 新二)	50		
神道概説(土岐 昌訓)	50		
各宗綱要(真言学)(遠藤 祐純)	51		
仏教美術(林 良一)	51		
仏教民俗学(和田 謙寿)	51		
宗教教育(櫻井 秀雄)	51		
宗教行政(櫻井 秀雄)	51		
教化法(皆川 広義)	51		
青少年教化法(皆川 広義)	51		
青少年問題研究(和田 謙寿)	52		
青少年指導演習(和田 謙寿)	52		
哲学概説(斎藤 知正)	52		
現代哲学概説(山下 太郎)	52		
哲学史(中村 友太郎)	52		
哲学演習(斎藤 知正)	52		
哲学史特講(久保 陽一)	53		
中国文学概論(飯田 利行)	53		
中国文学演習(飯田 利行)	53		
東洋思想研究(船津 富彦)	53		
中国哲学史(窪 徳忠)	53		

一般教育科目

人文分野

宗教学 I

松本 皓一

宗教に対する全般的理解を深め、仏教(禅)に対する基礎的学識をつちかう。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)

〔参考書〕『宗教学 I』(更生社)

宗教学 I (再クラス)

岡部 和雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)

『仏教の歩んだ道 I』(東京書籍)

宗教学 I (再クラス)

奈良 康明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)

『仏教のおしえ』(東京書籍)

哲学

戸田 洋樹

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生

活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の獲得にも努める。

〔教科書〕 その都度指示する。

論理学

湯浅 正彦

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむしろのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得に努める。

〔教科書〕 その都度指示する。

文学

篠原 壽雄

より知的生活を旨とする人間は、書かれたもの(書物)を正しく読み味わうことが要求される。このために多くの作品に直接あたって、その読み方などを学びとることは何にもまして大切である。そこでこの講座では、これからの研究に欠くことのできない基礎教養を旨として、中国の古典をえらんで文学として鑑賞すると共に、その訓詁法を学び、将来、漢訳仏典、禅録を研究する一助にしたい。

〔教科書〕『論語集註』¥1,500

プリント、他は随時示す。

社会分野

法学憲法

松村 格

法についての一般理論を前期で講義する。後期には、法と道德に結びついた具体的な問題を取りあげて講義する。例えば、法と生命という観点から、自殺と他殺の問題、墮胎や安楽死・尊厳死の問題、医療行為と臓器移植の問題を考えてみたいと思う。そのほか今日的な具体的問題を取りあげていくつもりである。

〔教科書〕 未定。

経済学

浅田 統一郎

本講義では、近代経済学の平易な入門書をテキストとして使用し、経済学的な考え方を養うことを目的として講義を進める。とりあげる主なテーマは、需要と供給の法則、国民所得、財政金融政策、景気循環、国際貿易などである。意欲ある諸君の受講を歓迎する。

〔教科書〕 幸村千佳良『経済学事始』（多賀出版）

社会学

角家 文雄

社会学の基礎理論と、その応用として教育社会学、マスコミ社会学を講義する。

〔教科書〕 角家文雄著『昭和時代』（学陽書房）
¥1,200

汚染のほかに、感覚公害も社会生活に大きな障害を与えるようになった。さらに汚染は国内だけでなく、遠隔地の海洋・河川・大気にまで拡散してきて、国際規模での改善対策が急務となってきた。そこで環境破壊や自然災害の実態をさぐり、さらに公害防止技術についても平易に解説する。

〔参考書〕 必要に応じて紹介する。

人類学

中島 寿雄

人類学の範囲はきわめて広く、短時間にその各項目を講ずるときは、表面をなでるだけの散漫なものになりがちなので、ここでは問題を「性」にしぼって講ずる。性は人類学上の重要な概念であるばかりでなく、人類学のほとんど全領域をおおいうものだからである。本学の人類学は一般教育の自然科学分野に属しているので、講義も自然科学的方面に主眼をおくことは勿論だが、ヒトの本質上、社会や文化にも言及せざるをえず、むしろ身体と文化との関連を考究させることこそ、人類学一般教育の目的に副うものというべきであろう。

〔教科書〕 準備中。

〔参考書〕 講義中に随時指示する。

心理学

谷口 泰富

本講においては、次のような内容について説明する。

- (1) 心理学とは何か
- (2) 環境の認知
- (3) 行動の変容
- (4) 人格の講造
- (5) その他

〔教科書〕 中村昭之編『心理学概説』（八千代出版）

自然分野

自然科学概論

斎藤 浩三

わが国においては、大規模な工業化と急速な都市開発が進展しており、エネルギーの大量消費や人口の都市集中にともなって各種の環境問題が深刻になっている。その様相も複雑化・多様化しつつあって、有害物質による

保 健 体 育 科 目

保健体育理論

森 本 葵

体力づくり

- <若年層における体力づくりの必要性>
- <体力のメカニズム>
- <体力づくりの方法>
- <体力づくりにかかわる疲労の問題>
- <疲労の判定法>

オリンピックゲーム

- <歴 史>
- <問題点>
- <その将来>

〔教科書〕 『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕 『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

保健体育理論（再クラス）

三 幣 晴 三

体育・スポーツに関する全般的知識，特に生涯体育，スポーツの文化的視点からの考察，人間の運動に関する実際の考察を中心とし，さらに現在および将来にむけての健康的内容を取りあつかう。

保健体育理論（再クラス）

森 本 葵

体力づくり

- <若年層における体力づくりの必要性>
- <体力のメカニズム>
- <体力づくりの方法>
- <体力づくりにかかわる疲労の問題>
- <疲労の判定法>

オリンピックゲーム

- <歴 史>
- <問題点>
- <その将来>

〔教科書〕 『保健体育理論』（科学書院）

〔参考書〕 『スポーツ・トレーナー教本』（日体協）

随 意 科 目

日本宗教文化史

脇 本 平 也

日本には、神道、仏教、キリスト教、民俗宗教、その他さまざまな多様な宗教が並び行われている。しかし、それらすべての宗教を通じて、いわば日本宗教とでもよぶべき共通の特色が見られるのではあるまいか。そういう問題関心を軸としながら、日本宗教文化史の流れを探ってみたい。

〔教科書〕 堀 一郎編『日本の宗教』（大明堂）

英 会 話 II

J. ウェルズ・J. G. ギャリソン
T. J. コーガン・P. A. ベンディネリ

全学で4クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。

担任名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認し、詳しくは教場で教師の説明に従って下さい。

〔教科書〕 テキストは担当教師が教場にて指示。

英 語 LL II

T. J. コーガン・見上 晃

英語LL I のアドバンスト・コースとして全学で2クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語LL I を履修しなかった学生も参加し履修できるようにしてあります。

担任名及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

〔教科書〕 テキストは担当教師が教場にて指示。

ド イ ツ 語 F

吾 妻 雄次郎

主として一、二年度でドイツ語を履修した学生諸君を対象に、第二次大戦前後の短編小説を通して、ドイツの特異性の一端に触れ、同時にドイツ文法の更に包括的な習得につとめる。

〔教科書〕 プリントによる教材使用。

〔参考書〕 特に必要無し。

ドイツ語 FLL（初級）

小 林 佳世子

ビデオテープ等の視聴覚教材を用いて、まず、生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話が出来るようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

ドイツ語 FLL（中級）

野 島 利 彰

週一回という限られた時間内で、LLを通して語学を学ぶ方法としては基本的には多数の文章の記憶以外にはない。耳から音を聴き、記憶し、そしてそれを口から出す。こうした機械的な——時には無味乾燥な——練習の場としてこの授業を活用して行きたい。

なお受講者には前年度にFLL（初級）をとった者を望む。

〔教科書・参考書〕 教場で指示する。

フ ラ ン ス 語 F

佐 伯 隆 幸

やさしいフランス語の教材を読みつつ、現代のフランス社会、文学のこと、また演劇のことなどを日本と対照させつつ講ずる予定です。教科書に類するものは教場で指示します。

フランス語 FLL（初級）

松 岡 宏 一

“Entrée Libre”を教材として用いる予定です。スライド画面とテープの音とを併用して、基礎的な表現力を養成したいと思います。会話は、音を真似ることから始められなければならないので、積極的に授業に参加し、フランス語を聞いたり話すことに慣れるようにして下さい。また、途中であきらめることなく、一年をとおして出席し、少しでも「フランス語」の中に入りこむこ

とができるように、希望したいと思います。テキストは教場で配布します。

〔教科書〕 『Entrée Libre 1』

フランス語 FLL (初級)

マドレーヌ・マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。

〔教科書〕 『Avec Plaisir』 Emission 1 より。

フランス語 FLL (中級)

マドレーヌ・マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聞きとり、及び表現の練習をします。

〔教科書〕 『Entrée Libre 1』

中国語 F

釜屋 修

すでに習得した中国語能力をいかしてより高く、より正確な中国語への理解力を高めるための共学の間である。最新の文学素材（短篇小説、評論文）を用いて文章解析力、朗読能力の向上に焦点をあてる。あわせて現代中国への理解の増進をも試みたい。

〔教科書〕 開講後に受講生諸君の希望も聞き選定する。

〔参考書〕 その都度指示する。

中国語 FLL (初級)

果 荃 英

中国語初級を終えたものを主たる対象とし、正確な発音をマスターし、やさしい中国語の会話を習得することを目的とする。視聴覚教材を使用して楽しく授業を進めたいと思う。

〔教科書〕 教場にてプリントを配布する。

中国語 FLL (中級)

羅 漾 明

中国語FLL初級を終えたもの又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。会話を中心として授業を進めます。

〔教科書〕 必要に応じて教場でプリントを配ります。

スペイン語 F

佐 藤 玖 美 子

スペイン文学とえば、誰もまず思い浮べるのはセルバンテスのドン・キホーテであろう。しかし、スペイン語を勉強する学生でも、この有名な作品を原文で読むものは案外少ない。本年度のスペイン語Fでは、現代語に書き改めたテキストを参照しながら、この世界の名著をできるだけ味わってみたいと思う。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 ハイメ・フェルナンデス著『ドン・キホーテへの招待』（西和書林）

スペイン語 FLL (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履習している学生の受講を望みます。

スペイン語 FLL (中級)

ホワン・ナバロ

前年度LL初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

杉 山 秀 子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力を身につけるため平易な読みもの——文学新聞の抜粋、諷刺漫画（クロコディ

ル), スプートニクなどをさまざまな角度からとりあげていきたい。

〔教科書〕 プリントを教場で配布。

ロシア語 FLL (初級)

タチアナ・野村

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕 教場にて指示。

ロシア語 FLL (中級)

タチアナ・野村

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に心がけていきたい。

〔教科書〕 教場にて指示。

英 語 (海外演習)

この授業科目は、ハワイ大学・カリフォルニア大学における短期留学サマーセミナーでの4週間・60時間に及ぶ現地演習を中心として行われる、英語随意科目である。

受講対象学生は、1年次生から卒業年次生までとし、6月上旬から7月上旬にかけての事前指導・事前講習、7月中旬から8月中旬にかけての現地演習、9月下旬のテストを通じて単位(2単位)が認定される。

受講希望者は、5月上旬に実施される説明会に参加し、5月中旬に所定の手続に従って申込めたい。受講の可否は、5月下旬に決定される。

基礎教育科目

基礎仏教学

新井勝龍

曹洞宗においては、仏教の開祖釈尊、曹洞宗の教理的基礎を示された高祖道元禪師、教団の基礎を形成された太祖瑩山禪師を「三尊仏」とも「一仏両祖」ともいって、仏祖中の仏祖として尊崇している。

本講座はこの三仏祖について、その伝記と思想を説明する。

〔教科書〕 ノートによる。

〔参考書〕 『禅籍解題』〔禅家語録〕（筑摩書房）

仏書解説 I

永井政之

将来どのような分野を専攻とするにせよ、当該の分野にどんなテキストがあるのかを知ることが最初の関門となる。この授業では、中国・日本の禅を学ぶにあたって、最低限知っておくべき資料を紹介する。授業は聖懐義諦の『禅籍志』を中心として進めるが、参考書として挙げたものも準備することが望ましい。

〔教科書〕 コピー配布。

〔参考書〕 『禅家語録Ⅱ—禅籍解題—』（筑摩書房）
『禅学大辞典』（大修館書店）

基礎仏教学

池田魯参

仏教を開いたブッダと、日本曹洞宗の高祖道元禪師と太祖瑩山禪師との、一仏両祖の生涯とその思想について学ぶ。

〔教科書〕 水野弘元『釈尊の生涯』（春秋社）
¥1,200

仏書解説 I

原田弘道

本講義は禅籍解説を内容とする。禅学研究上、欠かすことの出来ない重要な典籍を、Ⅰ禅宗經典、Ⅱ祖録、Ⅲ史伝、Ⅳ生活規範、Ⅴ隨筆等の五類に分け、中国撰述と日本撰述とに旦って取上げる。それぞれの典籍の占める位置、特色、影響などについて触れ、全体的、系統的な理解を目指す。

〔参考書〕 『禅家語録Ⅱ』『日本仏教典籍大辞典』（雄山閣）、『禅学大辞典』（大修館書店）

基礎仏教学

石井修道

基礎仏教学とは、「一仏両祖伝」とも通称しているように、仏教を開いた釈尊と日本曹洞宗の高祖道元禪師と太祖瑩山禪師の伝記を学ぶものである。さまざまな参考書があるが、現在の研究状況を紹介しながら、基本的な文献を読むことを中心に講義を進めて行きたい。

〔教科書〕 奈良康明編著『仏教の実践』（東京書籍）
¥1,500

〔参考書〕 プリント配布。

仏書解説 II

伊藤隆寿

初めに仏典の成立展開について概観し、以後は主要な仏典を抜粋して読みながら解説したい。

〔教科書〕 プリント使用。

〔参考書〕 『仏典解題事典』（春秋社）

仏書解説 I

伊藤秀憲

仏書解説 I は禅籍の解説である。この講座では、漢文に親しむということも考えて、禅籍 244 部について解説した『禅籍志』二巻を読みつつ講義を進めて行きたい。本書で不足する禅籍については、補足して説明する。

〔教科書〕 『禅籍志』二巻 担当でコピーする。

仏書解説Ⅱ

大谷哲夫

仏教は云うまでもなく、古来より東洋文明の精神的な支柱として、その大部分を担ってきたがために、仏書と呼ばれる数は夥しい。

本講座では、インド・中国・日本の数ある仏教典籍のなかから重要かつ代表的なものを撰び、その意義特色等についてわかりやすく解説する。

また、今後の仏教参究の際に基本となる、仏書の拜読の仕方、文献資料の具体的な活用法等についても適宜に言及してゆく。

〔教科書〕 『仏典解題事典』（春秋社）

仏書解説Ⅱ

片山一良

原始仏典及び大乘仏典を、他のインド、中国、日本等における諸資料との関連において、具体的かつ総括的に解説紹介する。

〔参考書〕 渡辺照宏『お経の話』（岩波新書）

仏教語解説

皆川広義

仏教を学んで行く上で大切な基本的仏教語を、平易に解説する。仏教の言葉は宗教として教主や祖師方の体験を通して生まれてきたものであり、生命のある言葉である。特にこの点をふまえて主体的に考察したい。

〔教科書〕 水野弘元著『仏教要語の基礎知識』（春秋社）

仏教語解説

峰岸孝哉

ここでは仏教語のうち、禅仏教の基本語をとりあげ、順次解説していく。これは当然禅仏教の性格、世界観を探ぐる問題でもあるので、具体的な文献を通して考えてみたい。テキストはその都度指示する。

仏教語解説

吉津宜英

仏教語はどこからどこまでと限定することはできない。仏陀釈尊は日常の会話の中において説法されたのであるから、特別にこれだけが仏教語だとする必要は全くないのである。ただ文献としての仏典を読んでゆく場合には必要な仏教用語が存在することも事実ではある。しかし、どこまで修得してもそれで十分とは言えない。また、それら主要な用語は仏教辞典を引いてみれば十分に意味が把握できるという考え方もあるだろう。しかし実際には文章の文脈によって意味が千変万化するもので、多くの文章に接して眼力を鍛えなくてはならない。本講義ではいろいろの文例に即して基本的な仏教用語を修得してもらいたい。一ヶ月に一回小テストを行う。

〔教科書〕 プリント配布。

〔参考書〕 教場で指示。

専門教育科目

禅学概論

黒丸寛之

釈尊の成正覚を起源として、インド・中国・日本に展開した禅仏教の歴史と思想、および禅の修行観・戒律観・人間観とその現代的意義について講述する。

禅学思想史

峰岸孝哉

禅学をどう規定するかは今日難しい。ここでは永平道元(1200～53)を開祖とする日本曹洞宗の教学・思想の意味に解し、この教学史を内容とするものとした。曹洞宗は室町中期より後期にかけてほぼ全国的に進出した。これは地頭・国人といった在地の有力武士の外護を獲得したためで、さらに近世にかけては、ここを本寺とする末寺を村落に構えることに成功して、今日の教団の土台が確立されたと考えられる。教学は一面、保守的・伝統的であるが、また教団の歴史的・社会的条件の反映を受けてきていることも事実である。授業では、各時代での代表的事例を選び、その思想と行動とを分析し、位置づける作業を通して、その歴史的性格も考える。

〔参考書〕『道元禅の歴史』〔講座道元Ⅱ〕
(春秋社)
鈴木泰山『禅宗の地方発展』
(吉川弘文館)

禅宗史Ⅰ

田中良昭

禅宗史Ⅰは、中国禅宗史をその内容とする。釈尊以来仏教の実践道とされた禅が中国へ伝来し、菩提達摩を初祖とする系統が、中国固有の思想や他の仏教諸宗と交渉しつつ、独自の中国禅宗を形成し、後には中国仏教の主流を占めるまでに発展した。そこで授業では、達摩渡来以前を導入とし、以下達摩の渡来から禅宗の成立までの成立の歴史と、禅宗が五家七宗に分かれて各々その特色を発揮する発展の歴史とを考察する。

〔参考書〕『禅の歴史——中国』〔講座禅第三卷〕
(筑摩書房)

禅宗史Ⅱ

原田弘道

禅宗史Ⅱの内容は日本禅宗史である。

我国に伝来した禅は、その主流となって類型を異にするものが五つあったと考えられる。これらを中心にして禅宗の発展の歴史を考察する。内容は伝来、受容・発展の実態とその思想史的意義の両面からとりあげてゆく。

〔参考書〕『禅の歴史——日本』〔講座禅第四卷〕
(筑摩書房)
鈴木泰山『禅宗の地方発展』
(吉川弘文館)

禅学実習Ⅰ

河村 孝道・小坂 機融
永井 政之

禅学は坐禅を根本とする宗教の学問的作業である。しかし学究のみではあくまでも万全ではない。究極はむしろ禅学の根本を実修する坐禅にこそ求められなければならない。禅学する者に坐禅が常に厳しく実修されないなら真の禅学とは言えない。従って本講座は坐禅堂における入堂・坐禅・経行・提唱・出堂の一切が厳肅に遂行されるが、このためには次の基本的心構えが必要である。

1. 時間厳守(始鈴十分前に全員入堂坐禅、遅刻不許)
2. 威儀服装の整備(規定の作法に従い厳肅かつ清楚)
3. 懈怠厳禁(自ら怠惰を戒め毎時間貞摺に精励する)

なお、(1)追再試等による救済措置は全くない。(2)特に新学期最初の授業は、坐禅堂における進退作法並びに席次等重要事項を指示するので必ず出席すること。

〔教科書〕『普勧坐禅儀』『正法眼蔵坐禅儀』『経行軌』等配布。

禅学実習Ⅱ

伊藤 秀憲・鈴木 格禅

一講時を二分し、前半は専ら只管打坐、経行を挿んで後半を『坐禅用心記』の提唱にあてる。授業の実施要領および基本的心構え等については、「禅学実習Ⅰ」に全く同じ。

講本は全員同じものを使用することが望ましいので、下記の要領にしたがってほしい。

遅刻を認めず、追再試あるいはレポート提出等による救済措置は一切講じられないから、このことを予めよく承知しておくこと。

〔教科書〕 『曹洞宗全書 宗源(下)』

423頁～427頁までをコピーし、厚目の表紙をつけ、指示にしたがって、学科学年・単番号・氏名を、大きく明記すること。

禅学講義

小坂 機 融

中国禅宗成立初期の語録中、禅旨を詩文によって表詮した『参同契』・『宝鏡三昧』・『証道歌』について順次講義する。まずこれら語録の成立流伝の歴史的背景を考察し、その上で当該語録について講じ、各祖師の挙揚した宗義宗風を明らかにする。今年度は、『証道歌』を中心に講義する。

〔教科書〕 『冠註証道歌』(教場で指示。)

〔参考書〕 『曹洞禅講義』、『禅の語録16』、『講座禅第六巻』

禅学演習 I

青龍 宗 二

従容録・碧巖録・無門関を順次に演習して、中国禅者の体得せる悟道の世界を把握しながら、公案のもつ意義と中国禅の特異性を追求してゆく。本年は従容録の演習。

〔教科書〕 講義の際に指示する。

〔参考書〕 『曹洞禅講義』

禅学演習 II

峰 岸 孝 哉

これは『永平語録』・『洞山録』・『臨濟録』等の祖録を一年づつ、講読演習していくものである。今年はまだ『永平語録』を読む。

〔教科書〕 教場で指示する。

宗典講読 I

新井 勝 龍

道元禅師親撰『学道用心集』を講読する。正法眼蔵が本証妙修の本証面に比重があるとすれば、学道用心集は妙修面に強調点があり、全篇を修行の心得として十章に分け組織的に示されたものである。

従って小篇ではあるが、日本曹洞宗の学道の枢要が述べられている。また説示が簡明であるため、古くから曹洞禅入門のテキストとして用いられてきた。本学で禅学科の必修最初の講座におかれているのも、この伝統をうけているからである。

講読に際しては、始めに史的ないし書誌的に本書の位置づけをし、ついで思想的に道元禅師の根本思想である一方究尽・本証妙修の道理をほりさげてゆきたい。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 岸沢惟安老師提唱『学道用心集講義』
増永靈風『学道の用心』

宗典講読 II

若 月 正 吾

前段においては、中国における清規の歴史とその概要を講述し、さらに道元禅師の清規の特異性を明らかにする。後段においては、テキスト『永平元禅師清規』を使用して『典座教訓』・『衆寮清規』について講義する。

〔教科書〕 教場で指示する。

宗典講義 I

河 村 孝 道

道元禅師の主著『正法眼蔵』を講義する。七十五巻本の順序に講義してゆくが、本年度はその中の『仏道』・『密語』・『無情説法』の巻を講ずる予定である。使用テキストは『正法眼蔵註解全書』のコピーに依り配布する。但し本学部生としては、必ず『正法眼蔵』全巻を所持して欲しい。全巻の刊行本としては、次の諸本がある。

〔教科書・参考書〕①『本山版・正法眼蔵』(鴻盟社)

②『古本正法眼蔵』(筑摩書房)
校訂

③『道元・上下・日本思想体系』
(岩波書店)

④『正法眼蔵註解全書』(十一巻・
中山書房)

宗典講義 I

黒 丸 寛 之

この講座では、禅学科の必修科目である道元禅師の『正法眼蔵』を講義する。本年度は『正法眼蔵』75巻本の編集順序に従って、「現成公案」「摩訶般若波羅蜜」「仏性」の巻を講読する予定である。使用テキスト・参考書などについては、開講時に指定する。

宗典講義 II

光地英学

伝光録の撰者と云うべき太祖瑩山禪師の生涯、伝光録の書誌学的考察、伝光録の中心思想と組織を講じ、次に伝光録各章をテキストに従って講述する。

〔教科書〕 光地教授『冠註瑩山禪師伝光録』
(駒沢書店) ¥ 3,300

〔参考書〕 『伝光録白字辨』(大本山総持寺)
『瑩山禪 伝光録講解』(山喜房仏書林)
1冊¥ 7,500(但、全4冊中、62年3月迄の出版は3冊のみ)

日用経典

櫻井秀雄

曹洞宗常用経典・祖典の解題、および回向文と各種疏などに表われる文意の解明を通して、実践宗学の実際を究明する。

〔教科書〕 櫻井秀雄『曹洞宗回向文講義』¥ 700
『続曹洞宗回向文講義』¥ 700

禅学特講 I

原田弘道

禅宗と公案

公案は禅宗における経典観と深いかかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

禅学特講 II

黒丸寛之

中世から近世におよぶ禅門の修行観(修証論)、戒律観(禅戒論)、嗣法観(嗣承論)について、その歴史的展開と道元禪師・瑩山禪師の禅思想を考察する。

禅学特講 III

石井修道

唐代語録の代表である馬祖四家録の古型を『天聖広燈録』巻八(宋版)で読む。中国唐代禅の馬祖・百丈・黄

蘗・臨済を学んで、中国禅の特色をみてみたい。同時に『祖堂集』をあわせ参照したい。

〔教科書〕 宋版のプリントを使用する。

『祖堂集』(中文出版社) ¥ 1,800

『天聖広燈録』(中文出版社) ¥ 3,800

禅学特講 IV

鈴木格禅

「見聞宝永記」講読

本書は通常「損翁老人見聞宝永記」と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に往した損翁宗益(1649~1708)のことである。損翁は面山瑞方(1683~1769)の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現代にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が一貫して流れている。

本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕 『続曹洞宗全書(法語・歌頌)』p. 411~
p. 445 までをコピーすること。

禅特講

椎名宏雄

近世初期の曹洞宗カナ法語の講読

近世江戸時代の禅門では、カナ文字の法語がたくさんつくられている。それは、禅匠たちが新しい時代に対応して、広く深い禅の思想をいかに平易な言葉で語り、布教に意をそそいだかの証しである。

本年度は、近世の比較的初期のカナ法語の中から、鈴木正三「万民日用」、月舟宗胡「夜話」、天桂伝尊「供養参」の三点をとりあげて講読してゆきたい。

〔教科書〕 プリント資料を配布する。

禅学研究

大谷哲夫

近世江戸時代、強固な宗教統制の下で行なわれた宗統復古運動の時代的意義と、その運動が醸し出した所謂の叡山派と天桂派の宗義論争の比較検討を通して、近世日本曹洞禅の宗教的本質を探り、その現代的な意義について参究する。

宗義論争についての重要な文献資料については適宜にプリントし配布する。

禅籍講義

青龍宗二

中国禅籍を講読してゆく。特に宗学の立場から、六祖壇経および南嶽下の禅語録を中心として、その原意を把握しながら、中国禅確立期の特異性および道元禅との異同を明らかにする。

〔教科書〕 燉煌本『六祖壇経』（コピーを配布。）

〔参考書〕 教場で指示する。

詩 偈

山口晴通

我が宗門の教義と漢詩とは表裏一体の関係にある。「詩禅一如」といわれる所以である。本講座では、具体的に漢詩を鑑賞しながら、初歩的な漢詩の作り方を学習せんとするものである。

漢和辞典の種類については、授業中に指示説明する。

〔教科書〕 山口晴通著『詩偈入門（上）』（曹洞宗宗務庁）¥1,000

〔参考書〕 『漢和辞典』

書 道

野村宙弘

古典（中国の王羲之の蘭亭序）の臨書による実技指導を行う。（特に書を書く上においての、正しい姿勢、正しい用筆法、正しい墨のすり方、正しい法帖の見方等、初歩的な基礎勉強を中心とした指導）

尚書道実技の為、硯（7吋以上のも）墨（5丁型）大筆（4号）小筆、下敷、文鎮、水滴、半紙（手すき）の用意が必要である。

〔教科書〕 『蘭亭序』（清雅堂）¥300

禅 美 術

海老根 聡 郎

日本の中世の水墨画の歴史を、中国絵画と関連させてのべる。

仏教概論

山内舜雄

先づ仏陀観・仏身論の発達・形成という仏教の基本構造を詳説し、次いで各宗の教義を、概ね歴史的展開に沿って詳述する。すべてノート講義とし、教科書を使用しない。

印度仏教史

田上太秀

仏教興起以前の歴史背景を述べ、そこに仏教思想萌芽を見出し、思想的展開を考察する。そして文献を紹介しながら仏教の流れを辿ることにしたい。

〔教科書〕 ノートによる。

〔参考書〕 教場において随時、指示する。

中国仏教史

佐藤達玄

中国民衆の仏教受容と、固有思想との関係を概観した上で、隋代より唐宋代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。

〔教科書〕 『仏教史概説——中国篇』（平楽寺書店）

印度仏教文化史

奈良康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されていく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑いない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕 辛島昇編『インド入門』（東大出版会）
奈良康明『仏教史Ⅰ——インド、東南アジア——』（山川出版社）

日本仏教史

山内舜雄

下記の教科書に依り、上古より中世を経て、鎌倉仏教までを概説する。特に鎌倉新宗の発生母胎になった。中世は中古天台本覚法門を詳説する。

〔教科書〕 宇井伯寿著『日本仏教概史』（岩波書店）は絶版となっているが、古本もあり、必要箇所のみをコピーしてもよい。

仏教教理史Ⅰ（印度）

袴谷憲昭

仏教教理史とは、「無常」という批判精神に発した仏教が、それを「常」の哲学に引き下そうとする動きと断えず戦ってきた歴史とも見ることができる。しかし、代表的仏教国である日本においてさえ、「無常」の批判精神は「常」の哲学によって覆い隠されているといっても過言ではない。この「常」の哲学を払拭すべく、インドにおける仏教教理の展開を跡付けてみたい、というのが本講義の基本的意図である。かかる意図のもとに、下記の教科書に基づき、それを批判し訂正しながら講義を進めていく。

〔教科書〕 『宗教学Ⅰ』（更生社）

仏教教理史Ⅱ（中国）

岡部和雄

インド仏教がどのようにして中国仏教へと展開していくかは、さまざまな観点から分析・研究されなければならないが、ここでは教理の歴史的展開を中心としてこの問題を考えてみたい。

〔参考書〕 鎌田茂雄『中国仏教史』（第一巻～第三巻）（東大出版会）
任繼愈主編『中国仏教史』（第一巻～第二巻）（中国社会科学出版社）

印度哲学史

金沢篤

ヴェーダ時代から現代にいたるまでのインド思想の流れを出来るだけ個々の文献の記述に即して概観する。

〔教科書〕 『インド思想史』（東京大学出版会）

経典講読Ⅰ

吉津宜英

この授業では『大方広華嚴経』を取り上げる。『華嚴経』は華で嚴（かざ）られた経典の意であるが、ビルシャナ仏の世界も蓮華蔵世界といわれるように蓮華の花ざかりであり、またボサツたちの修行もあちこちで花を咲かせるのである。その修行は発心から始まり、具体的には願心や信心によって示される。我々の欲心が始めの初発心からいかにして慧心や慈心や悲心となってゆくかを示す。心をめぐる壮大なドラマが展開される。そのドラマは本経の最後の章「入法界品」における善財童子の求道物語に具体的に示される。このような本経を所依として中国で成立した華嚴思想についても関説することにしてしよう。

〔教科書〕 プリント配布。

〔参考書〕 教場で指示する。

経典講読Ⅱ

岡部和雄

大乘経典とくに初期に成立した般若、維摩、法華などの諸経には大乘思想が横溢している。この経典講読Ⅱではそれらの大乘諸経から適切なパッセージをとりだし、講読する。大乘仏教がそれ以前の仏教とどのように相違するか、何をどう受けついで発達させたかを考える。

漢訳を中心とするが、梵文やチベット訳についても必要があれば言及する。

〔教科書〕 テキストはその都度、配布する。

仏典演習Ⅰ

佐藤達玄

天台教学の綱要書性格として広く読まれている諦観の「天台四教儀」を講読して、智顛の佛教理解の方法論を考究したい。

仏典演習Ⅱ

吉津宜英

この科目は仏典の中でも基礎的なものを取り上げることになっているので、今年は俱舎論を取り上げたい。世親の俱舎論は大部な著作であるから、私が大切だと考える要文をピックアップし、プリントし、テキストとした。俱舎論は界、根、世間、業、随眠、賢聖、定、智、

そして破我の九つの章から成っている。これらによって世親は我々がどのような存在であり、どのように迷い、どのような理想に、どのように到達し、最後に、仏教以外の思想をいかに扱うか、などを示したのである。このような仏教を大乘の立場から小乗と批判することは容易であるが、今の我々はこの仏教の問題点とともに、その良さも認識しなくてはならないと思う。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 教場で指示する。

仏典演習 II

伊藤隆寿

中国隋代の吉蔵の撰述した『三論玄義』を講読する。本書によって中国仏教の特色を理解するようにしたい。

〔教科書〕 『大正大蔵経 第45巻』1～14頁、各自コピーのこと。

仏典演習 II

池田魯参

『大乘起信論』を講読する。本書は、救済の根柢を自性清浄心として示し、迷いの現実と悟りの目標の二元に分けて簡明に説明する。

本書の成立については、中国撰述説があるほどで、漢字文化圏に与えた本書の影響は実に多大なものがある。未注書も、慧遠・元暉・法蔵の三疏を代表として、二百数十種を数えている。

講読にあたっては、できるだけ異説に注意をはらい、文章表現に現われる本書の教学思想の特質を把握してみたい。

〔教科書〕 平川 彰『大乘起信論』（大蔵出版社）
¥2,500

原始仏教

片山一良

仏教のルーツを原始仏教と呼ぶ。インドから中国、日本などへと伝わった大乘仏教、スリランカ、ビルマ、タイなどに伝わった南方の上座部仏教、これらはすべて釈尊時代の仏教に端を発している。その基本的かつ重要な教理、および文化的背景を紹介しつつ、初期仏教の本質を考究する。

〔参考書〕 水野弘元『原始仏教』（平楽寺書店）

仏教特講 I

平川 彰

インド・中国・日本の仏教の歴史と教理の展開を講義する。テキストに八宗綱要を使用し、各宗の教理の説明に重点をおいて講義をおこなう。

〔教科書〕 竜谷大学編『講本八宗綱要鈔』（永田文昌堂）

仏教特講 II

納富常天

『三国仏法伝通縁起』や『八宗綱要』などにより、日本仏教の成立や展開を考察する。

仏教特講 III

鎌田茂雄

華嚴教学を講義する。天台教学と並んでもっとも難解な華嚴教学は直接講義をきかないと理解できないものである。

〔教科書〕 鎌田茂雄著『華嚴五教章』（大蔵出版）
¥3,000

〔参考書〕 鎌田茂雄『華嚴の思想』（講談社）
¥1,600

仏教特講 IV

太田久紀

成唯識論 卷三、四、五巻 講読。

第七末那識・第六意識説を学ぶ。

〔教科書〕 『選註成唯識論』を使用するが、その他何でも可。

仏教特講 V

菅原昭英

現代は、我々の価値観が多様化し、かつ平板化してきた時代であるといえよう。だからこそ、仏教は、人類文化のかけがえのない一画として、これからも、繰り返し再発見されていかねばならないだろう。では、いま仏教・寺院は現代社会の中でどういう役割を果たしているのだろうか。我々は、そこに何を期待してよいのか。あるいは、そこから何が開かれてくるのであろうか。身近な問

題から出発しそこにもどるのが目標とはいえ、大切な方法は歴史を見なおすことである。日本の社会の中から仏教を積極的にうけとめた人々の歴史、明暗ともに仏教に深刻な役割を果たしてきた人々の歴史、そうした豊かな過去の実績をさぐる必要がある。

〔参考書〕 速水 侑『日本仏教史 古代』（吉川弘文館）その他、その都度紹介。

外国語仏書演習

木村 誠 司

Th. Stcherbatsky: Buddhist Logic Vol.I, Part I, Reality and Knowledge (pp.59-78) をテキストとする。本書は、約50年前に書かれた作品であるが、その学的価値はいまだに高い。

パーリ語（初級）

片山 一 良

パーリ語とは原始仏教の聖典語である。素朴な真実のブッダの教えに触れようとするならば、2000余年前に遡るこのパーリ語を学ぶ以外に道はない。本講座は、前半でパーリ語の現代的（西洋的）文法知識、後半で古典的（土着的）文法知識が身につくよう文例中心の学習指導を施し、最終目標を『ダンマバダ』第一句の理解に置くものである。

〔教科書〕 プリント（コピー）にて配布。

〔参考書〕 水野弘元『パーリ語文法』（山喜房）

P. K. Higashimoto: An Elementary Grammar of the Pāli Language (Maruzen)

パーリ語（上級）

福田 孝 雄

Na jaccā brāhmaṇo hoti, na jaccā hoti abrahmaṇo, kammanā brāhmaṇo hoti, kammanā hoti abrahmaṇo. (Sn. 650)

生まれによりてバラモンにあらず。生まれによりて非バラモンにあらず。行為によりてバラモンなり。行為によりて非バラモンなり。

〔注〕「brāhmaṇa」はこの場合、真の賢者、宗教者を指す。

真に含蓄のあるブッダの言葉である。我々はブッダの言葉や原始仏教の精神に謙虚に耳を傾けながら、パーリのテキストを読んで行きたい。前期には下記のテキストを用いるが、後期ではパーリテキストの中から、必要に

応じて適当な箇所を選んでコピーし、講読する。

〔教科書〕 A Pāli Reader with notes and glossary (by Dines Andersen) ¥2,300

パーリ語演習

福田 孝 雄

前期はSutta-nipatāを中心に、その註釈書Paramatthajotikāを併用しつつ講読を進めていく。後期にはパーリ論書の集大成たるVisuddhimagga（清浄道論）を読んで行くことにする。

〔教科書〕 夫々、テキストはコピーにて配布する予定。

パーリ仏教特講

片山 一 良

パーリ仏教とは、原始仏教から今日のテーラヴァーダ（南方上座部）仏教にいたる「パーリ語聖典に基づく仏教」をいう。その基本的性格は何か？ 本講はこれを教義（テキスト）、実践（コンテキスト）の両面から探ろうとするものである。特に従来の文献学に新しい人類学的方法論を導入した、いわば“仏教人類学”の立場からアプローチしたい。本年度は「瞑想——禪定」を中心に講ずる。

サンスクリット語（初級）

奈良 康 明

サンスクリット語の文法を学習し、簡単なテキストが読めるようになることを目的とする。

〔教科書〕 J.ゴンダ・鎧淳『サンスクリット語初等文法』（春秋社）

〔参考書〕 辻直四郎『サンスクリット文法』（岩波書店）

サンスクリット語（上級）

金 沢 篤

サンスクリット語（初級）文法に通り親しんだ者を対象とする。比較的平明なサンスクリット文献を実地に読むことを通じて、文法の基本的事項を確認し、デーヴァ・ナーガリー文字に馴れると共に、実際的な読解力を養う。テキストには以下のC. R. Lanmanの『サンスクリット読本』を用いるが、コピーしたもの（部分的）でも支障ない。

〔教科書〕 C.R.Lanman, A Sanskrit Rea-

der (廉価なインド版もある。)

〔参考書〕 辻直四郎『サンスクリット文法』(岩波書店)

サンスクリット語演習

金 沢 篤

サンスクリット文献の講読。仏教(文学)作品を予定しているが、テキスト等の仔細については開講時に指示する。サンスクリット語文法(初級程度)を学習していることが望ましい。

チベット語(文法)

木 村 誠 司

山口瑞鳳『チベット語文法』を教科書とするが、未公刊につき、コピーを使用するので、受講者は開講初日に必ず出席されたい。チベット語は、インド仏教・チベット仏教を研究する場合、必ず学ばなければならない語学である。

チベット語(講読)

袴 谷 憲 昭

いわゆる宗義文献と呼ばれているものの中から、その白眉ともいふべき、チャンキャールルベードルジェ ICang skya Rol pa'i rdo rje (1717-1786) の『教義規』 *Grub mtha'j rnam par bshag pa* を講読する。本書は、仏教教義に関して展開されたあらゆる問題につき、緻密にして適格な論述を試みたものとして既に定評のあるものである。従って我々は、本書を通して、インドからチベットへと展開した仏教思想史上の諸問題の核心を押えることが可能であるが、本年度は、さしあたって、「唯識章」の始めから講読することにした。受講者はチベット語(文法)を修得したものであるか、本年それを並修するものであることが望ましい。

〔教科書〕 Lokesh Chandra (ed.): *Buddhist Philosophical Systems* (Śatapitaka Series, Vol. 233)

ラテン語特講

佐 藤 玖 美 子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変

化に慣れることを目的としています。また平行して、やさしいラテン語で書かれた読物の講読をも行いたいと思います。

〔教科書〕 『ラテン語入門』(駿河台出版社)

宗 教 学 概 論

松 本 皓 一

社会・文化現象としての宗教が人間生活にとって如何なる意味があるのか、という問いを講義の中心課題とする。人間学として「宗教」を考えてみたいと思う。

〔参考書〕 講義中随時指示する。

宗 教 史

松 本 皓 一

本年度の講義は「日本宗教史」に限定する。但し、日本を東アジア文化圏の中で捉え、その宗教の歴史的展開を、「日本人がどのような宗教生活を送ってきたか」という視点にたって考えてみる。

〔参考書〕 講義中に随時示す。

キリスト教史

三小田 敏 雄

原始キリスト教から現代までのキリスト教を概説する。西洋史の講義と重複する部分は省略して、各時代のキリスト教の特色と問題点を明確にしてみたい。教科書および参考書は開講時に指示する。

キリスト教概論

金 井 新 二

キリスト教思想史の概説であるが、重点を「神の国」思想の歴史的展開に置く。それを中心として、キリスト教の人間観、世界観、歴史観を説明する。

〔参考書〕 講義中に指示。

神 道 概 説

土 岐 昌 訓

講義の前半は、巨視的な観点から神道の基本的な問題を取り挙げて、解説することを試み、後半は特に神社信仰に焦点をあてた話を展開してみたい。

〔参考書〕 土岐・白井共編『神社辞典』(東京堂出版)

各宗綱要(真言学)

遠藤 祐 純

仏教における密教的要素からインド密教の成立について見、次いで中国、西藏における密教を論ずる。それに並行して、密教の付法について、密教伝持の祖を中心に論ずる。教義面では、真言宗両部大経としての『大日経』『金剛頂経』について述べ、更に弘法大師空海の著作を取り上げ、真言教学の特質について講ずる。

〔教科書〕 『真言密教概説』〔智山教化資料 第八集〕(真言宗智山派宗務庁)143頁、
¥500 (宗務出張所 Tel 431-1081に問い合わせして下さい。)

仏教美術

林 良 一

インドにおける古代初期よりガンダーラ期の仏像成立にいたるまでの展開および仏教美術の図像学について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を、現地撮影のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

〔教科書〕 林 良一『ガンダーラ美術紀行』(時事通信社)¥2,200

仏教民俗学

和 田 謙 寿

集会や通夜・法事などに臨んだ際、必ず仏事などに関する質問を受けることがある。葬送習俗や靈魂に関する事柄、法名のつけ方や焼香の仕方、墓の建て方や年忌供養のしきたり、時には寺院の成立とその発展過程、野ぼとけの由来や伝説など、その質問の内容も色々である。このような時、相手に納得のつくような説明が出来たらさぞかし喜んでもらえる事であろう。このような時の心構えとして是非とも仏教民俗学の知識を身につけて置くことにしよう。住職をはじめ、郷土史や文化財の研究に従事しようとする者にとっては必須の学問であると言える。

〔教科書〕 和田謙寿著『仏教の地域発展』(仏教民俗研究会)¥2,900

宗教教育

櫻 井 秀 雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法

について考察し、家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と実際を研究する。

〔教科書〕 日本宗教学会「宗教と教育に関する委員会」編『宗教教育の理論と実際』
(鈴木出版)1985.10 ¥5,800

宗教行政

櫻 井 秀 雄

わが国の佛教、特に曹洞宗団の行政組織の変遷を中心とし、個人および団体の宗教行為と国家の意志とのかきわりあいを究明する。

〔参考書〕 井上恵行著『改訂 宗教法人法の基礎的研究』(第一書房)

教化法

皆 川 広 義

仏教における伝道法について、理論と実践との二面より概説したい。この場合、伝道とは教えを宣布する布教活動と、その教えにより対機を育成する教化活動を意味する。

理論面からは、教義、対機、伝道者及び伝道法の三点より、現代における老・病・死の苦悩をふまえて仏教伝道のあり方をさぐる。

実践面からは、教えの宣布を中心とした布教活動と、教えにより教化育成する教化活動に分けて現場における実践として具体的に考察する。

希望するものには実習を行う。

青少年教化法

皆 川 広 義

仏教における青少年教化活動について概説し、次に、対機論と集団教化及び個人教化法を特にとりあげて詳説したい。

対機論では、近代の諸科学の人間研究や仏教の人間観などをふまえて、幼児、少年、青年と身心の発達にそいながら特色及び行動などをさぐり、教化のあり方を求める。

集団教化法では、仏教青年会、禅的合宿研修(禅の集い・禅の家)スカウト・日校・子ども会などを、個人教化法では、人生相談・信仰誘引法など具体的に考察する。
希望するものには実習を行う。

青少年問題研究

和田 謙 寿

校内暴力や家庭内暴力・いじめ、薬物乱用など、年々少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際の面からの考察が必要である。今年は特に中学校および高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者を見つめて考察する事にする。更に生活指導教諭を希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。

〔教科書〕 和田謙寿著『少年補導の研究』（全防連）
¥1,200

青少年指導演習

和田 謙 寿

将来、青少年指導者を希望する者、つまり、社会教育主事や社会福祉主事、少年指導委員・補導教諭などの業務に従事しようとする人々には是非とも必要な講座である。本年は少年の非行問題を中心に授業を展開して行きたいと思う。特に教師になった場合は専攻をした学問は当然のこと、受持ち生徒の生活指導にも多大の比重で尽くさねばならぬので、非行対策の問題は重要な課題となる。

更に少年の問題に興味を持ち、研究しようと心掛ける者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一つの方法であろう。

哲学概説

斎 藤 知 正

哲学は本来、人間的生の根源的自覚をめざす学として外に対象に向うよりも、内に反省する主観の自覚であることを本質とする学問である。本講は外延的な概観よりも、内包的に全体に通ずる本質への反省に主眼を置いて話を進める。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

現代哲学概説

山 下 太 郎

西洋現代哲学の代表の一つは実存哲学である。その流れを解説し、とくにキルケゴール、ニーチェ、ハイデガー、ヤスバースの思想を中心として講義し、実存哲学における新しい人生観および世界観、社会観を明らかにしかねて宗教とのかかわりをも問題にしたい。実存哲学の背景としての近代思想の流れをも辿る意味で、テキストは山下著『実存哲学への道』を使用し、それに沿って説明する。

〔教科書〕 山下太郎著『実存哲学への道』（公論社）

哲 学 史

中 村 友 太 郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼としたい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期には、その背景となるギリシア哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕 教場で指示する。

〔参考書〕 その都度指示する。

哲 学 演 習

斎 藤 知 正

前年に引き続いてJohn Macquarrieの近著

“In Search of Humanity”（1982）をテキストにして演習を行う。J.MacquarrieはOxford大学教授で、著名な神学者であるが、広く諸哲学思想から、さらに生物学・心理学・社会学等の近代諸科学をも包括する広範な視野とバランスのとれた感覚をもって、人間性の究明にとりくんでいる。

〔教科書〕 コピーを配布する。

学年の最初の授業時間に受講生を決定する。以後は受け付けない。（コピー作成の都合による。）

哲学史特講

久保陽一

デカルト以来の意識内在主義の限界を説くことが「現代哲学」の共通の前提をなしているかのように見える。けれども意識を言語や実存や労働や無意識等で置き換えるだけで、人間の自己認識の問題が解消するわけではない。むしろ意識の構造を反省しつつ意識を越えるものへの通路を見出そうとした、後期フィヒテの哲学が再検討される必要がある。このような観点の下で、前期では後期フィヒテの宗教論、『浄福な生活への指教』を取り上げ、後期ではシュリング『超越論的観念論の体系』、ヘーゲルの宗教論等を、フィヒテ説との関連で検討する。

〔参考書〕 『世界の名著 フィヒテ、シュリング』（中央公論社）
ヘンリッヒ『フィヒテの根源的洞窟』（法政出版局）
ヤメ・ベゲラー編『ヘーゲル、ヘルダーリンとその仲間』（公論社）
『ヘーゲル読本』（法政出版局）

中国文学概論

飯田利行

国語科教師として、その任を全うしうるように配慮して、小学（文字・音韻・訓詁）の基礎知識と、特に日本文学と中国文学とかかわりある事項・作品を強調して講ずる。

〔教科書〕 飯田利行著『中国文学概論』（中国・日本史文研究会）¥2,000

中国文学演習

飯田利行

二十一世紀をリードするにいたる仏者の一人に良寛和尚が挙げられている。その良寛詩集を縦横に講釈し、また学生に意見を発表させて真価を確認させる。

〔教科書〕 飯田利行訳著『良寛詩集譯』（大法輪閣）¥3,000

東洋思想研究

船津富彦

広大な中国で長い年月をかけて、彼等が独自に創作した思想は、それ自体、貴重であるのみならず、日本や朝鮮、安南などの文化に大きな影響を与えている。今年度は主に古代中国の思想に重点をおいて概説し、さらに、

そのテキスト、著者について考察をし、それが後世どのように受容されたかについて、彼等の代表的な文を参考にしつつ考えてみたい。

〔参考書〕 授業中に適時指示する。

中国哲学史

窪徳忠

前年度に引続き、中国における道仏2教の交渉に重点をおいて、5世紀以降の道教史の講義を行なう。

〔参考書〕 窪『道教史』（山川出版社）¥1,900
窪『道教の神々』（平河出版社）¥2,500

心理学概論

篠原英壽

この講座は基礎教育科目に組入れられているが、専門科目であるので、心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで、心理学とはどのような学問か。その研究方法・研究対象、及び意義について講義し、さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して、上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕 『心理学概説』（八千代出版）

演習 I・II

大谷哲夫

『洞門劇譚』（梅峰竺信・撰）を主テキストとし、『宗統復古志』を併読することによって近世江戸時代の曹洞宗学の特質の一端を参究することを目的とした演習を行なう。近世江戸期の宗学を追求するとき、当時の宗統復古運動は現代においても看過すべからざる問題を多く含むことを認識する。そこで、この演習では宗統復古の主旨を、その主唱者**元山**の盟友であった梅峰（1633—1707）の『洞門劇譚』を精読しながら、その対派の意見等をも克明に比較検討する事によって解明し、またその現代的意義をも究明し、さらに当時の思潮の主流であった儒学との関連性をも合せて勘案することによって、近世日本仏教の中の曹洞禅の位置を考究する。

〔教科書・参考書〕 開講時に指示する。

教職および資格講座

教 職 課 程
学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座
博 物 館 学 講 座
社 会 福 祉 主 事 講 座
社 会 教 育 主 事 講 座

※ 上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。（履修についての詳細は「教職課程・資格講座の履修要項」を参照）

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学 校 図 書 館 司 書 教 諭 講 座	全 学 部
博 物 館 学 講 座	仏 教 学 部 ・ 文 学 部
社 会 福 祉 主 事 講 座	全 学 部 (59 年 度 入 学 生 より 適 用)
社 会 教 育 主 事 講 座	全 学 部 (62 年 度 より 仏 教 学 部 も 適 用)

目 次

教育原理(磯野 昌蔵)	1	民法 I (山崎 敏彦)	7
教育原理(上岡 安彦)	1	哲学特講 I (東洋) (篠原 壽雄)	7
教育原理(北村 三子)	1	哲学特講 II (西洋) (國嶋 一則)	7
教育原理(坂本 信昭)	1	宗教学特講 I (松田 文雄)	8
教育原理(村山 輝吉)	1	宗教学特講 II (脇本 平也)	8
青年心理学(大浜 幾久子)	1	宗教学特講 III (洗 建)	8
青年心理学(岸本 弘)	1	教育史(磯野 昌蔵)	8
青年心理学(牟田 悦子)	2	宗教教育(櫻井 秀雄)	8
青年心理学(渡辺 三和子)	2	教育関係法規(船木 正文)	8
教育心理学(大浜 幾久子)	2	教育評価(大浜 幾久子)	8
教育心理学(改田 明子)	2	生活指導(秋山 達子)	8
教育心理学(国眼 眞理子)	2	教育哲学(汐見 稔幸)	9
教育心理学(中村 均)	2	教育調査(前川 真一)	9
教育心理学(渡辺 三和子)	2	教育学特講(熊谷 一乗)	9
道德教育の研究(上岡 安彦)	2	教育情報学(難波 和明)	9
教育実習(上岡 安彦)	2	図書館学 I (山崎 慶子)	9
教育実習(北村 三子)	3	図書館学 II (源 昌久)	9
教育実習(坂本 信昭)	3	博物館学 I (倉田 芳郎)	10
教育実習(村山 輝吉)	3	博物館学 II (熊野 正也)	10
国語科教育法(神谷 道倫)	3	博物館実習 I (館務)(倉田芳郎・太田喜美子)	10
書道科教育法(谷村 義雄)	3	博物館実習 II (収集)(倉田芳郎・所理喜夫・ 葉貫磨哉・太田喜美子)	10
宗教科教育法(松本 皓一)	3	博物館実習 III (見学)(倉田芳郎・飯島武次)	10
英語科教育法(大沢 一雄)	4	視聴覚教育(赤堀 正直)	10
社会科教育法(地理)(川合 元彦)	4	日本文化史 I (有元 修一)	10
社会科教育法(地理)(中島 義一)	4	印度仏教文化史(奈良 康明)	10
社会科教育法(歴史)(野呂 肖生)	4	西洋文化史 III (三小田 敏雄)	11
社会科教育法(岡田 真)	4	仏教美術(林 良一)	11
社会科教育法(谷敷 正光)	4	現代美術(宮崎 克己)	11
社会科教育法(大久保 治男)	5	禅美術(海老根 聰郎)	11
職業科教育法(前田 穂)	5	美術史概説(林 良一)	11
商業科教育法(谷敷 正光)	5	西域美術史(林 良一)	11
商業実習(前田 幸一)	5	考古学概説 I (日本)(倉田 芳郎)	11
職業指導(山田 勇治)	5	考古学概説 II (外国)(飯島 武次)	11
産業概説(前田 幸一)	6	考古学特講 II (高浜 秀)	11
世界史概説(中村 道雄)	6	考古学特講 IV (飯島 武次)	12
世界史概説(渡辺 惇)	6	日本民俗学(山折 哲雄)	12
日本史概説(芥川 龍男)	6	仏教民俗学(和田 謙寿)	12
日本史概説(波田野 富信)	6	宗教人類学(佐々木 宏幹)	12
地誌学概説(今朝洞 重美)	6	考古発掘実習(寺社下 博)	12
地誌学概説(長野 寛)	6	社会福祉概論(東條 光雅)	12
地誌学概説(渡邊 盾夫)	6	障害福祉論(原田 信一)	12
自然地理学概説(早船 元峰)	6	社会福祉実習(東條 光雅)	12
人文地理学概説(小林 高寿)	7	社会福祉法制(小林 弘人)	13
社会学原論(渡辺 源樹)	7	公的扶助論(近藤 功)	13
経済原論(小野 俊夫)	7	児童福祉論(原田 信一)	13
政治学原論(上條 末夫)	7	老人福祉論(東條 光雅)	13
政治学原論(福岡 政行)	7		

社会保障概論(近藤 功).....	13
地域福祉論(永田 幹夫).....	14
ケースワーク論(高橋 重宏).....	14
グループワーク論(松本 栄二).....	14
社会福祉事業発達史(林 千代).....	14
母子福祉論(林 千代).....	14
医療社会事業論(松本 栄二).....	14
社会福祉方法総論(高橋 重宏).....	14
社会福祉管理運営論(重田 信一).....	15
リハビリテーション論(原田 信一).....	15
社会教育概論(磯野 昌蔵).....	15
社会教育方法論(村山 輝吉).....	15
社会教育行政財政(長澤 成次).....	15
教育社会学(熊谷 一乗).....	15
社会心理学(坪井 健).....	16
社会教育施設(村山 輝吉).....	16
児童文化(福田 博之).....	16
青少年問題研究(和田 謙寿).....	16
青少年指導演習(和田 謙寿).....	16
社会教育演習(上岡 安彦).....	16
成人指導及青少年指導(長澤 成次).....	17

教育原理

磯野昌蔵

教育とは何か
中等教育の歴史と問題
学校教育の役割

6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる
9. 教育制度をみなおす
10. 障害児とともに
11. 内なる差別を考える
12. 学びへの出発

〔教科書〕 田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所） ¥1,800

〔参考書〕 教師養成研究会『教育原理』（学芸図書） ¥950
デュエイ著、宮原誠一訳『学校と社会』（岩波文庫） ¥200

教育原理

上岡安彦

『エミール』（上・中・下）を年間を通して読みます。次にそこで、でてくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕 『エミール』（上・中・下）（岩波文庫）
上 ¥550, 中 ¥500, 下 ¥500

〔参考書〕 周郷 博『教育学講義』（柏樹社）
¥1,800

教育原理

村山輝吉

主として下村湖人の著作などを手がかりとして、人間の発達と教育、文化、社会の関わりを軸とする「教育」の原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしてみたい。

〔参考書〕 『下村湖人全集』（全10巻）（国土社）
『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』（東京出版会）

教育原理

北村三子

人間社会・人間文化の営み全体の中で教育のありようを問い直してゆくことを目指して、教育の制度・形態・内容・方法をめぐる諸問題や、それらを規定している社会的・歴史的諸問題を考察してゆく。

〔参考書〕 堀尾輝久・松原治郎・寺崎昌男編『教育の原理Ⅰ 人間と社会への問い』
稲垣忠彦・柴田義松・吉田章宏編『教育の原理Ⅱ 教師の仕事』（東大出版会）
1985年 I・Ⅱとも ¥1,500
ルソー『エミール』（岩波文庫）
上 ¥550 中・下 ¥500

青年心理学

大浜幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また性格テストなどの実習も行う。

青年心理学

岸本 弘

内外の青年心理学の研究業績を提示し、わが国の青少年をめぐる発達環境のゆがみについて考察したい。

〔教科書〕 『青年心理学』（くろしお出版）
¥2,300

〔参考書〕 『青少年期の特質と教育』（明治図書）
¥3,200

教育原理

坂本信昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、ともに考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待

青年心理学

牟田悦子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をもつかを
考えながら、青年期の様々な特徴を見ていく。また、現
在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対し
て、各自が考え、自分なりの判断力をもつこともこの授
業のねらいとしたい。

青年心理学

渡辺三和子

大人でも子どもでもない中間的な存在の青年期は、人
間の成長のなかで最も激動する時であり、それだけに中
高校生を理解するのは難しくまたおもしろい。前期はこ
の時期の特徴を概観する。後期はおもにこの時期の精神
的な病理現象をとりあげ、そこから現代の中学校・高校
教育のおかれている状況と問題点について考えていき
たい。

〔参考書〕 笠原 嘉『青年期』（中公新書）

教育心理学

大浜幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など
現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわる
ものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の
現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方と、
それに関連した最新の心理学研究を紹介、解説していく。
また知能テストなどの実習も行う。

教育心理学

改田明子

教育心理学の基本的な問題について、理解し、学習す
る。また、必要に応じて、心理検査などを実際に行ない、
学習の一助とする。

〔教科書〕 『教育心理学』〔改訂版〕（新曜社）

¥1,500

〔参考書〕 講義中に、そのつど紹介する。

教育心理学

国眼真理子

教育を学校教育に限定せずに、家庭、地域をも含めて
考え、その中で子どもひとりひとりの個性を生かすには

心理学的にどのようなことを考慮する必要があるのかを
考える。又、実際の教育現場で遭遇する青年期特有の病
理現象や対人関係のあり方に関する理解を深める。

〔教科書〕 『入門教育心理学』（有斐閣双書）

¥750

教育心理学

中村均

1. 発達

子どもはどのように大人になるか。子どもは大人とど
う違うか。

2. 学習

どのような仕組で学習は起こるのか。学習を促進させ
るにはどうしたらよいのか。

3. 知能・学力・創造性

4. 人格

一人一人の違いはどうとらえればよいか。

5. 学級集団

学級集団はどのような役割を果たすのか。

6. 教育評価

教育心理学

渡辺三和子

学ぶことと成長すること、学習活動とは何か、生徒を
理解する方法、さまざまな授業の型、集団としての学級、
学習の評価等基本的な教育心理学の考え方を学ぶ。また
教育の荒廃が語られる昨今、今日の学校教育の問題点を
探り、教師としてめざすべき方向について考える。

〔参考書〕 北尾倫彦・速水敏彦『わかる授業の心理
学』（有斐閣選書）

道徳教育の研究

上岡安彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕 『道徳教育の研究』〔改訂版〕（学芸図
書）¥750

教育実習

上岡安彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義
学習指導案作成実習

訪問指導

実習期間の研究授業参加

事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥300

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）¥300

教育実習

北村三子

教育実習前は、実習に際しての注意や心構えなどを中心とする事前指導を行ない、実習後は、現場での体験を相互に交換し、深め合いつつ、学校教育の諸問題や教師の課題などについて考え合う。

教育実習

坂本信昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などについての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成一提出、グループ編成による授業（ディスカッション）を行い、教育への理解を深め、望ましい教師像について一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

〔参考書〕大村はま『教えるということ』（共文社）¥480

『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥300

田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

教育実習

村山輝吉

教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるため、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはきんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

国語科教育法

神谷道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕『中学校・高等学校 国語科教育法（新編）』（桜楓社）¥1,200

書道科教育法

谷村義雄

文字を書くことは誰でもできることで決してむずかしいことではない。しかし、書は中国においては四千年の歴史があり、日本においても千数百年の歴史がある。この間にいろいろな書体が出来、そしていろいろな書法が生れた。書の芸術は悠遠の歴史の中で開花したもので、現在もまた現在の書が生れつつある。書を単なる文字記号と考える浅薄な思考に対して、書のもつ思想性、民族性を十分に理解して、書とは何かを改めて問いたす授業にしたいと思う。教育法はどう教えるかではなく、なにを教えるべきかを探求する内容にしたい。

〔参考書〕学習指導要領解説『芸術科』

宗教科教育法

松本皓一

宗教科教授法としての理論と実践上留意すべき諸問題を述べる。

〔教科書〕特に指定せず。但し、講義中に教材として指定することがある。

英語科教育法

大 沢 一 雄

多くの学者によって唱えられてきたいろいろな外国語教育法を検討し、わが国の英語教育において、どのような教授法を用いたらよいか、発音、語彙(い)、文法等の指導はどのようにしたらよいか、などを考える。講義は、ノートとプリントによっておこなう。

社会科教育法(地理)

川 合 元 彦

社会科教育発足の背景を明らかにし、学習指導要領(社会)の変遷、社会科教育についての論争、学習指導上の諸課題などを考察し、現在進められている学習指導要領(社会)の改訂についてもとりあげる。

また、指導案の具体的な作成も行なう。

〔参考書〕 川合元彦著『生活の場の見方・考え方—地理教育演習—』(古今書院)

社会科教育法(地理)

中 島 義 一

社会科(地理)教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。下記教科書のほか、地図帳(高校用、中学用どちらでもよい)を忘れずに持ってくる。出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

〔教科書〕 山崎謹哉『新訂 地理教育の本質と実践』(古今書院) ¥ 2,200

社会科教育法(歴史)

野 呂 肖 生

「中・高等学校の現場で社会科の授業をするさいに役立つように」を目標とし、社会科教育(とくに歴史)の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

社会科教育法

岡 田 真

社会科は暗記物? そんな理解を否定する史料が、オリジナルで岡田研究室には山積している。現在でも、社会科の本質を踏まえた授業はある。その指導案の分析等

のなかで専門技術的向上をはかりたい。

あなたの専攻と社会科との関係には、1.教材内容、2.社会科研究の、二側面がある。「社会科教育学」の動向を踏まえつつ、あなたの関連科学としての意味をもたせていこう。学会誌等で注目されるのは、近年、エコロジーが重視されてきたことである。その福祉技術の場合との対比も、余裕があれば、試みることにする。

〔教科書〕 岡田 真『「学習指導要領」と日本の福祉教育』(駒沢大学文学部研究紀要 No. 40.各自図書館でコピーすること) 日本社会科教育学会『中等社会科教育概論』(東洋館) ¥ 1,000
岡田 真『都市化日本の学歴社会』(大明堂) ¥ 1,200
日本社会科教育学会『公民的資質の形成』(東洋館) ¥ 2,700

社会科教育法

谷 敷 正 光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後日本資本主義発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。

したがって、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる教授方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。年間の授業計画は次の通りである。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本概念、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本概念、⑤中学校・高等学校の教育課程と社会科、⑥社会科の学習指導、⑦学習指導案の作成、⑧中学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑨高等学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての社会科授業実践の研究、⑬社会科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用について(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

〔教科書〕 梶 哲夫『中等 社会科教育研究(1)』(高陵社)
遠山 啓『競争原理を超えて』(太郎次郎社)

〔参考書〕 矢川徳光『教育とは何か』(新日本出版新書)
無着成恭『山びこ学校』(角川文庫)
その他、若干のルポ、小説、社会科の教科書、中学校・高等学校学習指導要領も

使用する。

〔注 意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

社会科教育法

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、社会科の教科教育法より効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の日標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別に模擬教育実習を通じて実践させることで合目的教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講義となるよう配慮する。

〔教科書〕 その都度指示する。

〔参考書〕 『学習指導要領』（中学・高校の社会）各自が使用した社会関係の教科書。

職業科教育法

前 田 穂

職業指導の意義及び技術に関する理解を深めるとともに、職業指導の運営管理の在り方の基礎的学識を培う。

〔教科書・参考書〕 授業において指示する。

商業科教育法

谷 敷 正 光

「職業教育」（産業教育）の一つである商業教育は、日本の資本主義をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にともなうめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育の「多様化」政策の破綻にともなう、商業教育は大きく軌道修正されさらに、先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、再び修正されようとしている。従って、本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するため、この「教科法」を商業教育の単なる技術論に終らせることなく、より基

本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論、職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。年間の授業計画は次の通りである。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育、商業教育の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての商業科授業実践の研究、⑬商業科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕 田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）
矢川徳光『教育とは何か』（新日本新書）

〔参考書〕 竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』（有斐閣）
田代三良『高校生』（岩波新書）
神田 修『学校からみた教育政策』（有斐閣）

その他、商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、ルポ、小説なども使用する。

〔注 意〕 年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。また年間、数回校外研修（授業参観）などを行う予定である。視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

商業実習

前 田 幸 一

商品取引における事務手続きについて勉強をしていく。

〔教科書・参考書〕 講義の際指示する。

職業指導

山 田 勇 治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学のみならず、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸ばし、生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕 山田勇治著『会計教育論』（創成社）
¥1,300

〔参考書〕 近藤大生・有木 章編著『職業と教育—
職業指導論—』（福村出版）¥1,500

産業概説

前田 幸一

日本の主要な諸産業を順次とりあげ、各産業についてその特性と歴史、現状と問題点を勉強していく。

〔参考書〕 宮沢健一・竹内 宏編『日本産業教室』
（有斐閣）

日本興業銀行産業調査部編『日本産業読
本』（東洋経済新報社）

世界史概説

中村 道雄

主にヨーロッパおよびアメリカ世界の歴史を概説する。
参考書にはこの外高校時代の世界史教科書も利用される。

〔教科書〕 衣笠・田村・中村・廣實『概説西洋史』
（東京創元社）

〔参考書〕 帝国書院編集部編『詳密世界史地図』
〔十二訂版〕（帝国書院）

世界史概説

渡辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南ア
ジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞ
れの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義
する。

〔教科書〕 特に定めず、プリント・資料を配布する。

日本史概説

芥川 龍男

中世に焦点をおいて講義する。講義の中で参考文献な
どを紹介するが、積極的に読破して欲しい。評価はレポ
ートおよびテストなどを総合的に見て評価する。

教科書・参考書はとくに指定しない。開講時に詳細な
注意事項を話します。

日本史概説

波田野 富信

時間数の関係から、日本史全般を各分野にわたって講
ずることは不可能に近いから、日本の歴史の流れの中か
らそれぞれ重要事項をとりあげて理解してもらおう。従っ
て各々がそれぞれに前もって予習をしてきて欲しい。

〔参考書〕 『新稿 日本史概論』（吉川弘文館）
¥1,500

地誌学概説

今朝洞 重美

地誌学の本質論を説明しつつ、日本地誌と外国地誌を
講義する。

地誌学概説

長野 覚

世界的視野において地理学の発達・概念を理解したの
ち、現代世界の地域特色を、自然環境やそれと関連性を
もつ人文現象について考察する。

後期には幾つかの国を対象に、その国の地誌を学習す
る。受講にさいしては、できるだけ地図帳を併用してほ
しい。

〔教科書〕 藤岡謙二郎共著『世界地誌』（改訂版）
（大明堂）

地誌学概説

渡邊 盾夫

読図の方法を理解したのちに、各国の地誌について日
本地誌と比較しながら講義する。受講希望者は地図帳を
持参して下さい。

自然地理学概説

早船 元峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、
人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を
用意（10枚程度）させ、それらをもとに種々なる作業

(土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成)をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

人文地理学概説

小林 高 寿

歴史学は時間の経過を追って、人間の作り出した社会構造と人間心理に迫ってゆくが、地理は空間の中に人文現象と、人間の認識される範囲の自然現象を追求し、説明する。人文地理学は従って常に歴史現象と歴史学とに交錯しつつ、人文現象に対する学的究明を深め、拡大しつつ、空間のもつ意味を固定的にでなく、究明しようとする。それ故にそこで扱われる素材は多様となる。

かくの如くして、本講においては、人文地理学の多様性をしっかりと受けとめ、将来の教職の現場にあって、応用のきく学問を勉強させようとする。

環境としての自然の基礎的理解、歴史学と地理学の交錯分野にまで、講義の内容が及ぶのは必然である。

〔教科書〕 西川 治『人文地理学入門』（東大出版会）¥2,800

〔参考書〕 高校用地図帳（アトラス）と二宮書店地理統計。

社会学原論

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

経済原論

小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学の基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを旨とする。

〔教科書〕 開講の際に指示する。

政治学原論

上 條 末 夫

開講時に指示する。

政治学原論

福 岡 政 行

本講座は政治学全体の理論的位置づけを行うもので、多角的に分析を行う。

行政国家=福祉国家=大衆社会という今日の状況の下で、議会デモクラシーをどのように理解するのが重要なポイントになる。システム分析・文化論的アプローチ・社会化理論などを中心に、前期は理論的分析を中心に行う。

後期は、政治学のかかえる今日の課題について、応用科学としての政治学原論と考え、講義を進めてゆく。

〔教科書〕 『現代政治分析理論』（早大出版）

¥2,500（その他追って指示。）

民法 I

山 崎 敏 彦

われわれの日常生活を規律する民法のうち、総則・物権法を扱う。その際、できるだけ多くの裁判例を示すことにより、よりよく理解していただけるよう努めたい。

聴講にあたっては、教科書のほか、小型のものでよいから「六法」を持参されたい。

〔教科書〕 我妻=有泉『民法I』（一粒社）

哲学特講 I（東洋）

篠 原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかにか受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕 『荘子』（第一冊）（岩波文庫）

哲学特講 II（西洋）

國 嶋 一 則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択

する手掛りとしたい。

〔参考書〕 その都度示す。

宗教学特講Ⅰ

松田文雄

——宗教思想および用語の概説——、特に教職単位であることを考慮し、宗教思想の潮流、および宗教思想史上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔参考書〕 随時指示する。

宗教学特講Ⅱ

脇本平也

——宗教現象の構造——宗教現象は、その内部にさまざまな構成要素をほらんだ複合的な体系をなしている。たとえば、宗教体験、思想・教義、儀礼、教団などの諸契機が構造的に関連しながらこれを形成している。そうした構造の分析と類型化を試みる。

〔教科書〕 脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』（日新出版）

宗教学特講Ⅲ

洗建

現代社会における宗教の問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係を規定する法制度とその価値規範、更に底流をなす宗教文化との関係について考察する。

〔参考書〕 適時指示する。

教育史

磯野昌蔵

わが国における青年期教育の発達を検討する。

宗教教育

櫻井秀雄

宗教教育の原理を究明し、できるだけ実証的な調査資料によって宗教意識をさぐり、これに対する具体的方法

について考察し、家庭・学校・社会教育のそれぞれにおける宗教教育の意義と実際を研究する。

〔教科書〕 日本宗教学会「宗教と教育に関する委員会」編『宗教教育の理論と実際』（鈴木出版閣）1985. 10 ¥5,800

教育関係法規

船木正文

本講義のねらいは、教育基本法を中心とする現行の教育関係法規を体系的に概観することにある。その際、今日生起しているさまざまな教育問題について具体的に取上げ、教育関係法規にてらして説明していく予定である。

〔教科書〕 特に使用しない。

〔参考書〕 『解説教育六法』（昭和63年版）（三省堂）

教育評価

大浜幾久子

生徒の発達を正しく測定し、評価することは、本来、教師の教育実践の中で重要な仕事である。教師は、評価を通して、生徒のつまずきを発見し、自らの実践を反省する。また生徒も、評価を手がかりとして、以後の自分の学習の方向を考える。ところが、教育評価ということばから多くの人がまず思い浮かべるのは、学力テスト・偏差値・通信簿・中申書等であり、これらは、大多数の父母・教師そして生徒にとって、今日の学校教育の矛盾の象徴として映っている。では、教育評価の本来の機能をとりもどすにはどうしたらよいのだろうか。教育評価の理論の歴史をたどり、また教育測定・評価の技法を実習を含めて学ぶことにより、この問題を考えていく。

〔参考書〕 ピアジェ、秋枝茂夫訳『教育の未来』（法政大学出版局）¥1,300

生活指導

秋山達子

現代のおとなたちが、おとなの合理的な考えで、子どもたちへの対策を考えれば考えるほど、結果は逆になるような気がします。

想像力も育てずに自立させられてしまう子どもたちは、自分の不満や抑圧された本能的衝動の結果を、既成の学問の理論を借りて説明し、その解釈ですべてを割り切って、その中に逃げこみ、実際に自分の心に問い直すことにしていないのではないのでしょうか。

〔参考書〕 秋山さと子『ユング心理学』（講談社現代新書）

教育哲学

汐見稔幸

今年度は、講義参加者といっしょに何点か児童文学作品を読み合いたいと考えている。最近の子ども・青年の意識や要求の世界を深く知るためには、従来からの心理学だけでなく心の科学としての精神分析学や精神医学などからも学ばねばならないし、すぐれた文学、児童文学作品からも学ぶことが必要である。児童文学の批評はすでに多方面から行なわれているが、教育学の側からの批評は十分ではない。今年度の講義はその意味で児童文学作品の教育学的批評というテーマになろう。形式としてはゼミ形式を考えている。四年生が例年多いので、開き方については参加者と相談して決めたい。

テキストも一回目の授業で決める。

教育調査

前川真一

教育という営みは、生徒が抱える問題点を把握するところから始められる。その際に、さまざまな観点から、いろいろな調査が行われることになる。たとえば、生徒の授業の達成度や学力を知るために行われるテストや、生徒の家庭環境・性格・学習方法などを知るための質問紙調査などがその典型的な例としてあげられる。ここでは、まず、教育現場で最もよく利用されている「テスト」に関して、その作成法・得点の見方・標準的なテストの種類などについて概観し、さらに、それと比較しながら、質問紙調査などのその他の調査方法について触れていく。

〔参考書〕『調査と測定』（新曜社）¥2,800

教育学特講

熊谷一乗

講義は、現代教育の諸問題というテーマで行われる。現代の学校教育が当面する重要な問題として、子どもの問題行動、差別・選抜、同和教育の問題を人権尊重、人間の尊厳の確立の観点からとりあげ、これらの問題の背景と発生のメカニズムを検討し、解決の方途について論ずる。ついで教育改革に関する問題をとりあげて、各種の改革論を検討し、何がどのように改革されなければならないかを考察し、現代の教育問題に対する理解を深めることをめざす。

〔参考書〕熊谷一乗著『学制改革の社会学』（東信堂）

教育情報学

難波和明

パソコンによる実習によってコンピュータはどのような道具かを紹介するとともに、CAI、CMI、コンピュータ・リテラシーなど、コンピュータと教育に関する話題を扱いながら、情報化時代の教育について考えていく。

図書館学Ⅰ

山崎慶子

児童・生徒の学習活動や教養・趣味を豊かにするには教科書の他に各種の資料を必要とする。最も有効適切な資料は何か、どうしたらそれらをすべての生徒に提供できるか。増大する一方の出版物や各種の情報が溢れる現代社会において、それを選択し活用する力を高めるにはどうしたらよいか。また人間形成に役立つ読書のあり方などの追求を、教育の場の中心ともいふべき学校図書館活動として考察していきたい。さらに生涯教育の場である公立図書館の使命や役割への理解を深めるようにしたい。

前期の講義内容は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」を、後期は「学校図書館の利用指導」と「読書指導」である。

〔教科書〕図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』（学芸図書）

図書館学Ⅱ

源昌久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には、目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワークおよび基本的規則について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕図書館教育研究会『新編学校図書館通論』（学芸図書）

日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 新版予備版』（日本図書館協会）
日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 新版予備版 追録および修正』（日本図書館協会）

〔参考書〕日本図書館協会分類委員会改訂（編集）『日本十進分類法 新訂8版』（日本図書館協会）

博物館学Ⅰ

倉田 芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「実習Ⅳ（特講）」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法について、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

博物館学Ⅱ

熊野 正也

地域における歴史博物館をとりあげ、数々の実践を通じてその展示と諸活動の方法について講述する。

博物館実習Ⅰ（館務）

倉田 芳郎・太田喜美子

博物館で10日間以上の学芸員についての実習を行う。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

倉田 芳郎・所 理喜夫
葉貫 磨哉・太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 8月下旬と2月中旬
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬
5. 遺跡分布調査 2月中下旬

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田 芳郎・飯島 武次

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

視聴覚教育

赤堀 正宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材やコンピュータ通信等のニューメディアの利用について考える。

学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新とつながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔参考書〕 大内茂男・中野照海他編『視聴覚教育の理論と研究』（日本放送教育協会）

日本文化史Ⅰ

有元 修一

日本文化の多様な流れを概観するとともにその特色をあきらかにする。本年は特に古代・中世を中心とする。

〔参考書〕 家永三郎著『日本文化史 第2版』（岩波新書）

印度仏教文化史

奈良 康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されてゆく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑われない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいをみるところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講義はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕 辛島 昇編『インド入門』（東大出版会）
奈良康明『仏教史Ⅰ——インド、東南ア
ジア——』（山川出版）

西洋文化史Ⅲ

三小田 敏 雄

今年度はローマの文化を取り上げる。今日われわれがローマ文化と呼んでいるものは、いつごろから現われたのか、そしてその特質はどんなものか、をできるだけ翻訳史料をあたりながら調べ、遺跡や彫刻を通じて確認してみる。ローマ時代にオリエントの影響が増大し最後にキリスト教の伝播によって、中世文化が生れるところまで講義する予定である。教科書および参考書は開講時に指示する。

仏教美術

林 良 一

インドにおける古代初期よりガンダーラ期の仏像成立にいたるまでの展開および仏教美術の図像学について講述する。寺院の遺跡や仏菩薩等の尊像を、現地撮影のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

〔教科書〕 林 良一著『ガンダーラ美術紀行』（時事通信社）¥2,200

現代美術

宮 崎 克 己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題（色彩、空間など）、表現内容の問題（象徴性、思想など）、社会的問題（展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など）等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学、およびレポートの提出を要求する。

禅 美 術

海老根 聰 郎

日本の中世の水墨画の歴史を、中国絵画と関連させてのべる。

美術史概説

林 良 一

中国の南北朝より朝鮮の三国時代を経て、わが国の飛鳥期の仏教彫刻にいたる様式的展開について講述する。各地の寺院遺跡や遺品などのカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

西域美術史

林 良 一

アフガニスタンより東西のトルキスタンにいたる西域美術を、仏教美術の東伝を中心に、各地の遺跡および遺品について講述する。現地の遺構や遺品のカラー・スライドを映写し、視覚的に理解を深めるように努める方針である。

〔教科書〕 林 良一著『ガンダーラ美術紀行』（時事通信社）¥2,200

考古学概説Ⅰ（日本）

倉 田 芳 郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ（外国）

飯 島 武 次

『考古学ゼミナール』の講読を通じて外国考古学について講義を行なう。

〔教科書〕 江上波夫監修『考古学ゼミナール』（山川出版社）1976年（学生版、¥2,800）

考古学特講Ⅱ

高 浜 秀

ハンガリーから中国の北方オルドス地方に至るユーラシア北方草原地帯では、紀元前1000年紀に青銅器時代から初期鉄器時代へ移行すると共に、紀元前8～7世紀頃、スキタイ系騎馬遊牧民文化、あるいは初期遊牧民文化と総称される一連の文化が興った。講義では、これらの文化を概観する。

考古学特講Ⅳ

飯島武次

UNESCO, "Recent Archaeological Discoveries in the People's Republic of China"の講読を行なう。

〔教科書〕 UNESCO, "Recent Archaeological Discoveries in the People's Republic of China," 東洋文庫附属ユネスコ東アジア文化研究センター 1984年¥2,100

日本民俗学

山折哲雄

柳田国男と折口信夫の民俗学について考察し、現代文化の諸相に光をあてる。

〔教科書〕 山折著『神と仏』（講談社新書）

仏教民俗学

和田謙寿

集会や通夜・法事などに臨んだ際、必ず仏事などに関する質問を受けることがある。葬送習俗や靈魂に関する事柄、法名のつけ方や焼香の仕方、墓の建て方や年忌供養のしきたり、時には寺院の成立とその発展過程、野ぼとけの由来や伝説など、その質問の内容も色々である。このような時、相手に納得のつくような説明が出来たらさぞかし喜んでもらえる事であろう。このような時の心構えとして是非とも仏教民俗学の知識を身につけて置くことにしよう。住職をはじめ、郷土史や文化財の研究に従事しようとする者にとっては必須の学問であると言える。

〔教科書〕 和田謙寿著『仏教の地域発展』（仏教民俗研究会）¥2,900

宗教人類学

佐々木宏幹

宗教がある社会においてどのような意義と役割をもつかという問題を考察することを主眼としながら、宗教と人生観・世界観との関係、宗教儀礼の象徴的性格などについて、とくに言及したい。東南アジア仏教文化圏の事例を多く用いる。

〔参考書〕 小口偉一編『宗教学』（弘文堂）¥1,300

考古発掘実習

寺社下 博

野外における考古発掘実習を行なう。20日間以上参加することが必要である。年度始めの講義時間に必ず出席のこと。

社会福祉概論

東條光雅

わが国の社会福祉に関する概論的な知識を持つということは、社会福祉従事者としては言うまでもないが、一国民として生活してゆく上でも非常に有益なことであると言える。

本講では、まず、社会福祉の概念整理から始め、その歴史的展開過程、福祉のしくみ、分野などについて論じ、社会福祉の諸制度の現状と今日的課題について、一応の体系的理解ができるようにつとめたい。

なお、本講座が概論という基本的な講座であり、また、受講生が福祉学専攻生ではないことに留意し、より一層分かりやすい指導につとめたい。

〔教科書〕 仲村優一著『社会福祉概論』（誠信書房）¥1,500

〔参考書〕 太田義弘・佐藤豊道編『ソーシャル・ワーク』（海声社）¥1,400

障害福祉論

原田信一

主として、わが国における心身障害児（者）福祉の発展過程をその淵源にさかのぼりつつ講じたい。なかでも、とくに、思想面（社会的規範）と政策面等の二面的視角にたち、原点を探るとともに、さらに欧米先進諸国のそれとの対比から、わが国の心身障害福祉の見直しをはかり、新たな課題構築の素としてもらう。

〔教科書〕 星野他編『障害福祉論入門』（改訂版）（有斐閣）

〔参考書〕 林邦雄他著『心身障害児（者）福祉』（田研出版）

社会福祉実習

東條光雅

社会福祉実習は、授業で修得してきた社会福祉の理論や基礎知識、技術といったものを、実際の福祉処遇の現場で実践・応用し、その有効性や妥当性を検証すると

もに、現場の実態やそこの問題点を探るための貴重な体験の機会である。

教室で学び、思考してきたものを机上の空論としないためにも、この実習の機会を有効に活用してほしい。

〔教科書〕 1). 大島 侑編『社会福祉実習教育論』(海声社) ¥1,950

2). 『社会福祉六法』(第一法規) ¥3,800

〔参考書〕 随時紹介する。

社会福祉法制

小林 弘 人

本構義は、憲法 25 条を具体化する社会保障・社会福祉に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。前期の前半は『社会学研究』15 号所収の「西ドイツにおける社会行政法」を資料にして、主として西ドイツにおける社会福祉に関する法の問題点を検討する。この検討を終えた後は、教科書『社会福祉の法を考える』に準拠して、当初の目的達成のための講義を行う。

〔教科書〕 小林弘人編著『社会福祉のための法人門』(川島書店)

〔参考書〕 小川政亮著『社会事業法制』(ミネルヴァ書房)

公的扶助論

近 藤 功

公的扶助は、社会保険と並び、社会保障の 2 大部門の 1 つであり、憲法第 25 条に定められた国民の基本的人權の 1 つとしての生存権を保障するため、国民の最低限度の生活を守る貧困救済の最後の安全網 Safety net である。わが国では、公的扶助を代表するものは、生活保護制度であるが、公的扶助としては、このほかの扶助も含まれる。

この公的扶助について、欧米諸国の歴史的生成過程をたどり、その問題点を明らかにするとともに、わが国における公的扶助の歴史、制度の現状及び課題を講じる。これらの諸問題は、社会保障の原点として、ひろく社会保障そのものを規定する基本的条件である。

〔参考書〕 開講時に指示する。

児童福祉論

原 田 信 一

今日、児童をめぐる法律・制度は整備され、社会福祉分野においても、いちじるしい進歩をみた。しかし、現実面では必ずしもそうとばかりはいきれない。つまり、

日々、目まぐるしく激動する社会で、引切り無しに生起する種々の児童福祉侵害問題に対応しきれない状態が今日の姿である。児童の人權無視にはじまり、公害・家庭崩壊・機能低下など限りなく出現し、まさしく児童福祉の危機的様相をみせている。そこで、本講においては、児童福祉を広い視座から考察し、児童への理解と併せて、児童に関連ある法制度にも言及しさらに、狭義の児童福祉事業(児童福祉法など)の関連にもふれ講じてゆきたい。

〔教科書〕 原田信一『現代児童福祉学』(学文社)

〔参考書〕 高橋重宏編『児童福祉を考える』(川島書店)

老人福祉論

東 條 光 雅

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想されるが、これに対処すべき老人福祉施策はまだまだ不十分な状況である。わが国においては、約半世紀後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉対策の歴史的変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔参考書〕 冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』(海声社) ¥1,400

社会保障概論

近 藤 功

社会保障は、憲法第 25 条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的発展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障(年金保険、公的扶助、児童手当等)、医療保障(健康保険等)その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔教科書〕 小沼 正・地主重美・坂本哲哉編『社会保障概論』(川島書店)

〔参考書〕 開講時に指示する。

地域福祉論

永田 幹夫

今日における急速な社会福祉改革の方向を示すものとして1970年代以降に登場したのが現代的意味での地域福祉論である。地域福祉の概念およびその支柱たる在宅福祉サービス提供システムの開発と地域組織化・福祉組織化等の方法論に関する基礎理論を実践動向に即して論究し、地域福祉の全容把握をはかりたい。

〔教科書〕 『地域福祉組織論』（全国社会福祉協議会出版部）¥1,900

〔参考書〕 『地域福祉教室』（有斐閣）¥1,400

ケースワーク論

高橋 重宏

ソーシャル・ワーク実践の専門技術の1つであるソーシャル・ケースワークについて、まず、ケースワークの意義、定義、歴史的展開過程、原理、ソーシャル・トリートメント過程、関連理論などについて論及する。さらに、ケースワークの臨床事例を紹介し、ソーシャル・ケースワークとは何か、一応体系的に理解できるようにとめたい。

なお、後期の臨床事例研究では、小グループでのディスカッション、発表など、学生の主体的参加を求めるので留意しておくこと。

〔教科書〕 久保紘章・高橋重宏編著『ケースワークを考える』（川島書店）

仲村優一編『ケースワーク教室』（有斐閣）

グループワーク論

松本 栄二

社会福祉実践方法としてのグループワークについての基礎的知識と技術ならびに倫理性について考えてみる。

講義の方法をとる以外に、映画、ロールプレー、事例検討などの方法もとり入れる。

資料の適時配布についてはコピー代実費徴収する。

〔参考書〕 『福祉施設が求める専門職者』（東京書籍出版）¥2,000

社会福祉事業発達史

林 千代

いつの時代にも、人々の生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の变

動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕 今岡他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕 随時紹介。

母子福祉論

林 千代

私は、婦人問題の視点から婦人福祉論を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス・施策が主な内容になる。そして、婦人の生存さえあやぶまれる状況の一つが母子家庭になった時なのである。それは、いわば婦人問題の集約であり、施策の最も具体的な対応がせまられる状況である。このような問題意識に立て、講義のあらすじを示すと次のようになる。(1)婦人(母子)福祉への歩み、(2)母子家庭とは、(3)母子家庭の生活実態とその困難、(4)母子福祉施策の現状と問題点。なお、父子家庭の増加に伴い、単親家庭としての把握の中で父子家庭問題にもふれたい。母子家庭と父子家庭の共通点と相違点を明らかにする。

〔教科書〕 講義ノートによる。

〔参考書〕 随時紹介。

医療社会事業論

松本 栄二

前期は具体的実践記録を資料として医療社会事業-医療ソーシャルワークの側面と医療福祉制度の側面について知的関心を学生に持ってもらう様な講義を進めてみたい。後期は、文献研究によって医療社会事業の歴史、社会的側面と共に、その概念的明確化をめざした講義内容を計画している。

講義のなかで用いる事例など資料代は実費徴収する。

社会福祉方法総論

高橋 重宏

今日の社会福祉は、福祉サービスの提供者と利用者のあいだの対人的・非貨幣的支援活動のもつ比重が高まっている。本講義は、社会福祉実践の専門技術(skill)の

基礎について学ぶことが中心となる。

具体的には、ソーシャル・ワークの基礎知識及び関連理論、歴史的展開過程、ソーシャル・ワーカーの専門性、現代社会におけるその独自の社会的機能等を明確化させつつ、ソーシャル・ワークについての入門的解説を中心に展開したい。さらに、臨床事例を用いながら、ソーシャル・ワーカーになるための基礎理解を深め、ソーシャル・ワーカーとしての専門職業的倫理観や基本的姿勢についても追求したい。

〔教科書〕 高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編著『ソーシャル・ワークを考える』（川島書店）

〔参考書〕 必要に応じて指示する。

社会福祉管理運営論

重田 信一

わが国における社会福祉実践の実態分析から、福祉政策、行政、財政、福祉施設運営、地域住民の福祉活動のあり方等を検討し、その総合化の方向について考察を加えたい。なおこの講義においては、その前提としてのわが国における社会福祉実践の時代的展開の特徴、および欧米の類似制度・実践との比較検討もあわせて行いたい。

本講義の履修は、これから社会福祉の学習に入ろうとする学生諸君の事情も考察しておるので、念のため附記しておく。

〔教科書〕 プリント（教室にて無償配布する。）

〔参考書〕 多数あり、講義の進行に沿って紹介する。

リハビリテーション論

原田 信一

リハビリテーション領域のなかで、いちじるしく遅れをみせているのが、社会リハビリテーションであるといわれる。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも困難な問題を抱えていることがいちじるしく遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで本年はとくに、社会リハビリテーションに視点を絞り、その基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践の方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕 講義ノートによる。

〔参考書〕 随時指示する。

社会教育概論

磯野 昌蔵

社会教育とは何かを次の諸点から検討する。

○社会教育制度

○学校教育と社会教育

○社会教育関係団体

社会教育方法論

村山 輝吉

前年度に引きつづき、戦後のわが国における社会教育実践の代表例について方法論構築の観点から検討する。

〔教科書〕 確井正久・倉内史郎編著『新社会教育』（学文社）¥2,000

〔参考書〕 適宜指示する。

社会教育行政財政

長澤 成次

戦後社会教育行政の基本を憲法・教育基本法そして社会教育法の構造的連関のもとで把えると共に、国民の学習・文化・スポーツ権を生産にわたって保障する社会教育行政の今日的課題を考察する。

〔教科書〕 その都度指示する。

〔参考書〕 社会教育推進全国協議会編『改訂 社会教育ハンドブック』（エイデル研究所）1984年

教育社会学

熊谷 一乗

子どもの発達と教育に社会的要因は、どのように作用するのか、教育はどのような仕組で行われるのか、また教育は社会のなかでどのような機能をはたしているのか、といった点を明らかにすることをねらいとして、講義をすすめる。講義の内容は、①子どもの発達と社会、②集団の教育力と子ども、③教育と社会、④学校と子ども、という四つの領域から成り立っている。全体を通じて子どもの発達と教育の社会的連関を解明し、現代の深刻な教育上の諸問題の解決に取組むための視点と方法を理解してもらうことをめざしている。

〔教科書〕 熊谷一乗著『子どもの発達と社会——教育社会学の基礎——』（東信堂）

〔参考書〕 熊谷一乗著『現代の教育原理』（東信堂）

社会心理学

坪井 健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理（行動）に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理（行動）に関心を持ち、社会過程を重視する社会的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕 穴田義孝編『こころ・行動そして社会』（人間の科学社）

社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とは何か
2. 社会教育施設にかかわる人々
3. 公民館
4. 図書館
5. 博物館
6. 社会体育施設
7. その他の社会教育施設・関連施設
8. 社会教育施設をめぐる動向と課題

〔教科書〕 確井正久・倉内史郎編著『新社会教育』（学文社）¥2,000

〔参考書〕 小林文人編『公民館・図書館・博物館』（講座・現代社会教育 第6巻）（亜紀書房）

児童文化

富田博之

児童青少年の人間形成における「児童文化」の意義と役割、および主としてわが国の児童文化の成立過程（歴史）と現状を探り、併せて児童文化や社会教育の現場で働く人々たちのための基礎的実習を行なう。

児童文化の歴史では、児童青少年のためのコミュニケーション・メディアの発達史を扱い、その現状では、現代文化における児童文化の実態と、児童青少年の生活や形成に及ぼす影響について考える。

実習では、身体とことばによる表現とコミュニケーションの方法の基礎を学習する。

〔参考書〕 日本演劇教育連盟編『もっと朗読を——美しい日本語のために』（晩成書房）¥880

青少年問題研究

和田謙寿

校内暴力や家庭内暴力・いじめ、薬物乱用など、年々少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際の面からの考察が必要である。今年は特に中学校および高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者をつめて考察する事にする。更に生活指導教諭を希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。

〔教科書〕 和田謙寿著『少年補導の研究』（全防連）¥1,200

青少年指導演習

和田謙寿

将来、青少年指導者を希望する者、つまり、社会教育主事や社会福祉主事、少年指導委員・補導教諭などの業務に従事しようとする人々には是非とも必要な講座である。本年は少年の非行問題を中心に授業を展開して行きたいと思う。特に教師になった場合は専攻をした学問は当然のこと、受持ち生徒の生活指導にも多大の比重で尽くさねばならぬので、非行対策の問題は重要な課題となる。

更に少年の問題に興味を持ち、研究しようと心掛ける者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一つの方法であろう。

社会教育演習

上岡安彦

秋期に埼玉県川口市内の公民館、図書館、幼児会館、青少年会館、婦人会館、児童文化センター、視聴覚ライブラリー等で一週間の社会教育実習を行います。

実習前は、社会教育実践記録として『成人教育への挑戦』を読み、実習後にはマクロの視点から『生涯教育』を読みます。

〔教科書〕 永田良行『成人教育への挑戦』（全日本社会教育連合会）¥750
エトール・ジェルビ『生涯教育』（東京創元社）¥1,500

成人指導及青少年指導

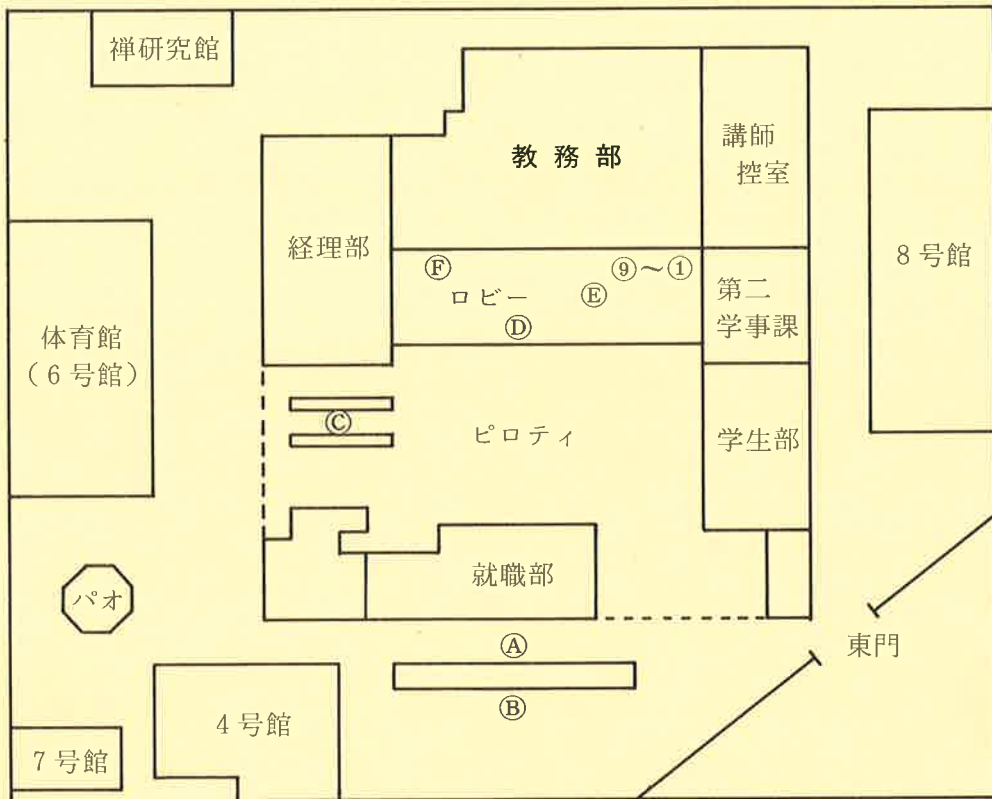
長 澤 成 次

社会教育における成人指導・青少年指導のあり方を、
戦後日本における青年教育実践に焦点をあてて考察する。

〔教科書〕 その都度指示する。

〔参考書〕 日本社会教育学会編『現代社会と青年教育』（東洋館）1985年

教務部窓口（本部棟 1階）および掲示板案内



①教職課程

学校図書館司書教諭講座

②博物館学講座

社会福祉主事講座

社会教育主事講座

④証明書（教務関係）申込受付・発行

<健康診断書および在学証明書は学生部>

※諸証明書申込用紙は経理部前にあります。

⑤諸届願（休学・復学・退学・死亡 改氏名・本籍地変更・保証人変更 保証人住所変更・聴講）

⑥大学院関係・留学生関係

学部演習（仏教学部・経済学部）
法学部・経営学部

卒業論文（仏教学部・文学部）

⑦時間割変更・休講・外国語指定届

卒業証書・転部科

⑨履修・試験・成績・学業相談

①第1掲示板（表面）

公示・告示，学生部関係連絡事項，
教務部関係（試験・教職・研究室等）連絡事項，
その他

②第2掲示板（裏面）—臨時掲示板—

教務部関係連絡事項（12月～3月），
就職部関係連絡事項（9月～11月）

③第3掲示板—臨時掲示板—

教務部関係連絡事項（12月～3月），
就職部関係連絡事項（9月～11月）

④休講掲示板

⑤授業時間表カウンター

⑥大学院・留学生関係掲示板

